

《事業の概要》

1. 理事長指針・学校長方針

理事長指針

1. 継承・進化させた学園の長期ビジョンに沿って一層邁進し、教育・研究における質への転換をさらに図るとともに、グローバルな環境下で活躍できる人材を育成する。
2. 透明性の高い経営を推し進め、本部・設置各学校が一体となり、有効なイノベーションを実行する。
3. 設置各学校において「オンリーワン」、「ナンバーワン」を強化し、魅力的で広く社会から選ばれる教育機関となる。

大阪工業大学 学長方針

2017年度開設予定の新梅田キャンパス・新学部は、「新しい大阪工業大学」を象徴するものであるとともに、これまでの本学の様々な改革の延長線上に位置付けられるものである。従来の改革を踏まえ、新キャンパスを含めた全学の教育・研究の質向上のため全教職員が一致協力し「新しい」工大の誕生に向けて取り組んでいくものとする。

2013年度学長方針において掲げた「J-Vision OIT 改革2022」や2014年度制定した「学園創立100周年に向けたグローバル展開の基本方針」に基づく諸施策など、教職員一人ひとりの改革意識、行動を一つの方向に集約し、さらに実効力を高めることを目指すとともに2016年度の第三者評価受審に向けて、自己点検・評価体制の強化を図る。

- I. 「新しい」工大誕生に向けた全学的取組体制の確立
- II. 「J-Vision OIT改革 2022」の推進
- III. 建学の精神に基づく人材育成と実践的教育
- IV. 大学広報のイメージ戦略 — New OIT Image Strategy
- V. 地域再生の核となる大学
- VI. 新展開を目指した戦略

摂南大学 学長方針

I 基本方針

本学では、総合大学として多岐の分野にわたる学部や部署が緊密に連携し合い、大学全体として広く深い「知のネットワーク」を構築するとともに、視野が広く高度で柔軟性のある知的な総合性ならびに豊かな人間性を兼ね備えた人材育成を理念としている。その方向性を表すタグラインとして“Smart and Human”を掲げ、これを教職員で共有し教育・研究を展開するとともに、この“Smart and Human”を広く社会に情報発信し、本学の取り組みの浸透を図っている。

2015年度は、特に「連携力の強化」に重点的に取り組むほか、「グローバル人材の育成強化」「ブランド構築とUSRの推進」の3本柱を最重要課題とする。また、3年目となる学園第Ⅱ期中期目標・計画の達成に向けた取り組みを継続実施することとする。

さらに、本学が創立40周年を迎えるため、種々の記念事業を実施し「摂南大学」の40年を振り返るとともに、創立50周年(2025年)に向けて策定される長期計画「SETSUDAI VISION 2025」を実現すべく継続的に大学改革を推進する。

II 課題

<最重要課題>

- (1) 連携力の強化
- (2) グローバル人材の育成強化
- (3) ブランド構築とUSRの推進

<課題>

- 1 教育体制の整備
- 2 学生・就職支援の強化
- 3 教職員の資質向上
- 4 学生募集・広報の強化
- 5 改組等
- 6 環境保全への取り組み
- 7 第三者評価重点年度

広島国際大学 学長方針

< 基本方針 >

本学は、「医療系総合大学」として、建学の精神に掲げる、世のため、人のため、地域のために「理論に裏付けられた実践的技術」をもち、現場で活躍できる専門職業人の育成を行うため、2022年長期目標及び第Ⅱ期中期目標を立て計画を進めており、今年度で3年目を迎える。

この間、本学を取り巻く状況は、18歳人口の減少、中四国地方における著しい地域外流出、競合他大学における学部・学科の新設や文部科学省が進める教育改革への対応など厳しさが増してきた。

このような厳しい環境下において、本学が安定的に学生を確保し、将来にわたって持続的発展を遂げるためにさらなる大学改革を行うことを決意した。2015年度においては、「広島国際大学の改革プランと持続可能性」も見据え、2018年度以降も本学の持続的な発展を可能とするため、以下の点を重点課題として掲げて大学改革に取り組むこととする。

1. 大学ブランドの創造
2. 教育改革
3. 教育・研究環境整備
4. 学生の生活環境整備
5. 業務のスリム化

また、公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審するにあたり、IRを活用した評価システムを構築し、データに基づいた自己点検・評価・改善活動を推進し、広く社会から選ばれる大学を目指す。

< 具体的な施策 >

- I. 教育・研究
- II. 学生支援・キャリア支援
- III. 学生募集
- IV. 人材育成(教職員)
- V. 財務
- VI. 連携推進
- VII. ブランディング
- VIII. 社会貢献・産官学連携
- IX. グローバル化

常翔学園中学校・高等学校 校長方針

教育理念、2022年長期目標(国公立大学への進学者数100人、学園内3大学への進学率35%)達成に向け、第Ⅱ期中期目標・計画を検証のうえ実践し、常翔学園中学校・高等学校に入学した生徒の学力伸長と人間力向上を図ることで実社会で活躍できる人材を育成する。中学校および高校一貫コースについては、これまでの運営についての改善・見直しを行うとともに、進学実績での成果が出るよう全教職員が積極的に支援する。

- 学園内3大学進学率 計30.0%(2015年度卒業生、対卒業生数比)
- 大学合格者数(2016年度入試、既卒生を含む延人数)
国公立大学 50人、関関同立大学 150人
- 2016年度入学目標数
高校:565人(内部進学者を含む人数、外部募集人数は11クラス435人)
中学校:105人(募集人数100人)
- 進路目標に対する具体的行動計画を立て、それを継続して努力している生徒の割合が50%以上

[学校運営・人材育成]

経営感覚を有した教職員の育成と学校運営改善のための積極的な行動の奨励 他

[授業力]

授業アンケートのポイント向上のための授業の工夫・改善、大学入試問題分析強化、研究授業、教員研修等を通じた授業力の向上 他

[教育内容]

ICT教育実践のための環境整備と教科指導の事例研究と実践 他

[生徒指導]

ルールやマナーにこだわりを持たせる指導と教職員自らの率先垂範した行動 他

[生徒募集]

募集広報に有効な情報(成績伸長、活躍、教科の取組み・成果等)の共有化とホームページへの掲載 他

常翔啓光学園中学校・高等学校 校長方針

世界経済の変革が進む中、近い将来我が国においては技術革新とグローバル化に対応できる人材の育成が強く求められている。暗記力だけではなく、主体性と創造力を持ち、豊かな人間性ある多様な人材がこれからの少子高齢化に備えて必要とされている。本校では各生徒に自信を持って自分で決めた進路に向かわせる取り組みを教育の中で実践し、様変わりする社会において多様なニーズやグローバル化にも順応できる人材の育成に取り組んでいる。各生徒に確固たる目的意識を持たせることで探求心と自学自習の力を涵養させて学力を向上させるとともに、卒業後も大学や企業そして広く社会で存分に活躍できる幅広い能力を身に

つけさせる。以下の各項目を実践することで生徒・保護者の期待に応えられる学校作りに邁進する。

[学校運営・人材育成]

法人合併後の2年目に入り、教職員が稟議申請のシステムの円滑な運用を推し進めるとともに、コンプライアンスに徹する姿勢を共通の認識とするように努める 他

[学習指導]

将来への目的意識をしっかりと持たせるためのキャリア教育を系統的に行い、将来の目標を明確化することで、探求心の向上と基礎学力の増強を図る 他

[人間力育成・生徒指導]

基礎的・基本的な知識や技能だけでなく、それに基づく思考力・判断力、そして自己アピール能力を育み、主体的に学ぶ姿勢を涵養する 他

[生徒募集]

適正規模の生徒確保は学校運営の根幹であるとの認識を教職員全体で共有するとともに、中学校の募集人数を確保するため、成果の上がる募集方法ならびに広報活動を展開する 他

2. 事業計画 実績報告

(1) 事業計画 2015年3月23日(月)理事会承認

1) 法人本部

No.1▶大阪工業大学梅田キャンパスの開設準備および新校舎新築〔経営企画室、財務部〕

2) 大阪工業大学

No.1▶新学部設置事業〔学長室企画課〕

No.2▶グローバル人材育成事業〔国際交流センター〕

3) 摂南大学

No.1▶大学・大学院の改組事業〔学長室企画課〕

No.2▶創立40周年記念事業〔学長室企画課〕

4) 広島国際大学

No.1▶広島国際大学 2015年度大学改革事業

〔企画課、庶務課、会計課、営繕課、呉庶務課、教務課、呉教務課、総合教育センター、学生課、呉学生課、入試センター、キャリアセンター、医療経営学部事務室〕

5) 常翔学園中学校・高等学校

No.1▶ICT教育推進事業〔高校教頭・事務室〕

6) 常翔啓光学園中学校・高等学校

No.1▶学力向上対策〔中学・高校 進路指導部〕

(2) 目的、計画、事業実績 2016年5月26日(木)理事会報告

1) 法人本部：1件

事業計画の目的、計画など	事業実績
<p>No.1 大阪工業大学梅田キャンパスの開設準備および新校舎新築</p> <p style="text-align: right;">《 経営企画室、財務部 》</p> <p>【実施計画・必要性・目的等】</p> <p>《 必要性・目的 》</p> <p>本事業は、学園の重点的推進事業として、以下の趣旨により展開する。</p> <p>① 大阪工業大学に「ロボティクス&デザイン」を理念とす</p>	<p>1. 自己評価による達成度</p> <p>2015年度に実施すべき事業計画は、計画どおりに実施されており、評価できる。</p> <p>2. 実施した施策</p>

事業計画の目的、計画など	事業実績
<p>る新学部・学科を新設し、その理念を施設全体で実践することにより優れた人材を輩出する。</p> <p>② 大阪工業大学および学園設置各学校が、産官学民の連携を強化しながら、イノベティブ(革新的)な研究・技術開発への取り組みを創出する拠点となることを目指す。</p> <p>③ 梅田という立地特性を活かし、多目的ホール、会議室、ギャラリー等を備えた市民開放型「にぎわい施設」の役割も併せ持ち、産官学民が交流し、知と情報が創造される場として、開かれたキャンパスを築く。</p> <p>梅田キャンパスにおけるこれらの施策は、ひいては教育の質やブランド力の向上、そして学園の経営基盤強化に資することとなり、厳しい時代を乗り越えてゆく糧となる。</p> <p>《実施計画》⇒本事業は2012年度より開始(4年目)</p> <p>(I)経営企画室 ・キャンパスの開設準備 大阪工業大学梅田キャンパスの開設準備を進める。 2015年度は梅田キャンパスでの事業運営計画を立てるため、以下の活動を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 事業組織の検討・決定 ② 運営・管理体制の検討・決定 ③ 各共用施設(多目的ホール・会議室・ギャラリー等)の活用方法の検討・決定 ④ レストラン・コンビニテナントとの開店に向けた具体的協議 <p>(II)財務部 ・新校舎新築 新キャンパスでの学部等設置(改組、移転等)を含む教育・研究事業、地域連携・貢献事業、その他新規事業を想定した新校舎を新築する。</p>	<p>(I)経営企画室 2015年4月～2016年3月</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 梅田キャンパス開設準備委員会を月1回のペースで開催し、進捗状況の共有と意見交換を行った。 2) 2014年度に設置した下部組織を再編し、「施設貸与プロモーション部門」「事業企画部門～自主企画・連携企画、社会人学び直し企画・学園各学校連携企画」「オープニング企画・広報部門」の4組織を置き、課題毎に検討を進めた。12月にシンポジウムを開催するとともに、パンフレットを発行した。 3) レストラン等のテナントと開店に向けた調整を進めた。 4) 10月に発足した大阪工業大学梅田キャンパス開設準備室と定期的に打ち合わせを行い、開設準備を進めた。 5) 法人本部、大阪工業大学の教職員に対し、月1回のペースでメールにて委員会の審議状況や建築工事の進捗状況について情報提供した。 6) 共用施設の活用に向けて、使用料金や使用規定について検討を進めた。 <p>2015年6月4日～9月28日 キャンパスビルの愛称を大阪工業大学在学学生および教職員から募集し、「OIT梅田タワー」に決定した。また、ホール名称を「常翔ホール」とした。</p> <p>2015年9月28日</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 法人本部、大阪工業大学において梅田キャンパスに関連する各種業務に関わる実務担当者を対象とした実務者連絡会を実施し、情報共有を図った。 2) 下部組織での検討状況について理事長、大阪工業大学学長に説明し、事業の方向性を確認した。 <p>2015年12月19日 キャンパス開設に向けたシンポジウム第1弾として、「ROBOT SERVICE INOVATION」を開催した。</p> <p>2016年3月29日 法人本部と大阪工業大学とが連携を強化し開設準備を行ってきた梅田キャンパス開設準備委員会について、その目的を達成したため解散した。</p>
<p>【具体的指標・効果(成果検証)】</p> <p>(I)経営企画室 梅田キャンパス開設準備委員会にて作成した全体スケジュールに基づき、具体的な準備を進めていく。</p> <p>(II)財務部 2016年度内の利用開始に向け、計画どおり新校舎建設を進めていく。</p> <p>【完遂時期】 新校舎の竣工:2016年10月(予定) 利用開始:2016年度内(予定)</p>	<p>(II)財務部 2015年4月14日 内装(トイレ・エレベーター等)について関係者に説明を行い、決定した。</p> <p>2015年8月3日 植栽計画の基本方針について関係者に説明を行い、決定した。</p> <p>2015年10月16日 常翔ホール内装について関係者に説明を行い、決定した。</p> <p>2016年1月27日 中間出来高検査、上棟式を実施した。</p> <p>2016年2月1日 教室・研究室等の内装について関係者に説明を行い、決定した。</p> <p>2014年4月～現在</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 北梅田地区まちづくり協議会にオブザーバーとして出席し、これ以外に主要なイベントに地域住民と共に参加している。 2) 梅田東連合振興町会会長、茶屋町振興町会会長、鶴野町新興町会会長、芝田一丁目振興町会会長、芝田二丁目振興町会会長、大阪市北区梅田東地域社会福祉協議会会長への挨拶。→継続して意思疎通・情報交換を図っている。 3) セイレイ興産株式会社(ヤンマー本社ビル所有者)との協力

事業計画の目的、計画など	事業実績
	<p>関係を構築し、本構想・計画との進捗調整など、種々の協議を行っている。</p> <p>4) 関係官庁(都市技術センター、大阪市教育委員会、大阪市開発計画課、大阪市開発誘導課、大阪市建築企画課など)と建築にあたって詳細な協議を続けている。</p> <p>3. その他</p> <p>(今後の計画)</p> <p>(I) 経営企画室</p> <p>《キャンパス開設準備関連》</p> <p>2016年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低層階の“にぎわいエリア”における施設管理・運営管理・利用促進体制の構築、備品・什器の検討と導入 ・キャンパス竣工前後の各種対応 など <p>(II) 財務部</p> <p>《新校舎新築関連》</p> <p>2016年10月末 建物竣工予定</p> <p>2016年10月27日 竣工検査・竣工式</p>

2) 大阪工業大学：2件

事業計画の目的、計画など	事業実績
<p>No.1 新学部設置事業 《 学長室企画課 》</p> <p>【実施計画・必要性・目的等】</p> <p>《実施計画》</p> <p>① 必要書類の周到な準備および円滑な申請</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年4月の新学部設置に向けた文部科学省への申請計画の立案・準備 ・市場調査(入口、出口の調査において専門的見地から分析を行い新学部の有用性を証明) ・学部名称の英語表記にかかる国際的通用性調査 等 <p>② 2017年度開学の新学部に関連する受験生・保護者・高校等を対象とした入試広報活動およびその基礎となる“新しい”大阪工業大学のイメージ浸透</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部・学科等のコンセプトに関する内容・表現方法のブラッシュアップとそれを踏まえたターゲット別広報手段の検討・実施 ・訴求対象に応じた広報の検討・実施 ・限定された予算内で最大効果を得るためのフリーパブリシティ活用等の検討・実施 ・新学部における教育目標を実現する上で必要な入学者のリテラシー向上策の検討・実施 等 <p>③ 梅田新キャンパスに導入する設備等のグランドプラン策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イノベーションを創出する知的交流拠点として、また、西日本最大のターミナル・梅田という立地特性を活かし、多目的ホール、会議室、ギャラリー、商業スペースを備えた市民開放型「にぎわい施設」の役割も併せ持つ産官学民が交流し、知と情報が創造される場として、従来の学校施設の枠にとらわれない、学習環境、ICT等を融合させた近未来型モデルとしてのフューチャークラスルーム設置など、最大限その機能を発揮で 	<p>1. 自己評価による達成度</p> <p>① 2016年3月28日に収容定員増学則変更認可申請書類および同年4月26日付でロボティクス&デザイン工学部設置届出書類を文部科学省に提出した。(2016年6月末認可予定)</p> <p>② 各種広報媒体で“新しい”大阪工業大学のイメージ浸透を図るため、学部・学科等のコンセプトをよりわかりやすく高校生等に伝えられるよう、文章表現やイラスト等を工夫し広報活動を行った。</p> <p>※ 2016年度入学選考試験において、新学部に置くロボット工学科および空間デザイン学科の前身となる工学部の同名学科の志願者数が顕著な伸びを見せている点から、広報活動の効果が認められる(工学部空間デザイン学科が前年度比123%、ロボット工学科が124%)。</p> <p>③ 開設後の教育研究活動を円滑に進められるよう、専門業者の協力を得ながら施設・設備や図書等、教育環境の整備計画を行った。</p> <p>2. 実施した施策</p> <p>① 申請業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省へ事前相談書類提出(2015年10月) ・新学部等受容性調査(入口、出口)実施(2015年10月～2016年1月) ・文部科学省へ収容定員増学則変更認可申請書類提出(2016年3月28日) ・同省へロボティクス&デザイン工学部設置届出書類提出(2016年4月26日) <p>② 広報活動(2015年4月～2016年3月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学部リーフレットを作製し高校生等に配布 ・高校生向けの受験冊子やサイト等で新学部のPR活動を実施

事業計画の目的、計画など	事業実績
<p>きる空間造りのため、専門業者の協力を得ながら導入する設備等のグランドプランを作成</p> <p>《必要性・目的》</p> <p>大阪工業大学は従来の工学教育を尊重しつつ、これからの時代に新しい価値を創造できるイノベーション人材を育成するため、大阪・梅田の地に新学部を新設する計画(工学部空間デザイン学科、ロボット工学科は大宮キャンパスから新キャンパスに移転)。</p> <p>上記実施計画に基づき、文部科学省への申請関係業務を円滑に完遂するとともに戦略的な入試広報を展開することで新学部開設を成功に導く。</p> <p>【具体的指標・効果(成果検証)】</p> <p>《実施時期》</p> <p>[2015年度]</p> <ul style="list-style-type: none"> 入試広報活動(プレ広報) 設置申請の事前相談書類提出 入口・出口調査 導入設備等グランドプラン策定 <p>[2016年度]</p> <ul style="list-style-type: none"> 設置申請・広報活動 <p>[2017年度]</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月 新学部設置 	<ul style="list-style-type: none"> 本学主催のシンポジウムや保護者向け講演会等で新学部のリーフレット配付 JR西日本の車内広告掲出 本学ホームページに新学部の特設サイト掲出 など <p>③ 設備等(2015年4月～2016年3月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ギャラリースペースやキャンパスレストランなど市民開放型「にぎわいエリア」、ロボティクス&デザインセンターなどイノベーションを創出できる人材の育成拠点となる「イノベーションエリア」、新学部の教育研究活動の拠点となる「ロボティクス&デザインエリア」などグランドプランを策定 各エリアの具体的使用計画を検討 <p>3. その他</p> <p>① 申請業務</p> <p>文部科学省への新学部等設置にかかる事前相談の結果、ロボット工学科において、教員配置の年齢構成について意見が付されたため、若手教員の育成方針、今後の採用計画など、教員組織の将来構想を継続して検討していく。</p> <p>② 広報活動</p> <p>2016年度も引き続き上述の広報活動を実施していく。</p> <p>③ 設備等</p> <p>上述のグランドプランにもとづき、必要な施設設備等を継続して整備していく。</p>
<p>No.2 グローバル人材育成事業 《国際交流センター》</p> <p>【実施計画・必要性・目的等】</p> <p>本学の『グローバル展開の基本方針』に沿って、「理工系グローバル人材の育成」を果たすことを目的とする。量的拡充だけでなく、PDCAサイクルによる質保証・質向上を伴うプログラム展開の観点で継続的な事業運営が必要であると考える。</p> <p>[継続事業]</p> <p>(I) 海外研究支援プログラム</p> <ol style="list-style-type: none"> 内容: 大学院で専攻する学生自身の研究を海外の大学等で実施させる。帰国後、指導教員が成果を確認し、国内での研究と合わせて成績評価し単位認定する。 対象者: 大学院博士前期課程・専門職学位課程の1年次生または2年次生。大学院進学が決定している学部学生。 派遣期間: 1ヵ月以上～約半年 派遣人数: 定員30人 支援内容: 学生の渡航費と生活費の一部、指導教員の出張費等。 <p>(II) 国際PBLプログラム及び海外ラボ体験プログラム</p> <ol style="list-style-type: none"> 内容: 海外の協定大学を活動の拠点としてProject-Based Learningや各研究室での研究活動を体験させる。これらの活動は所定の手続きを経て単位認定を行う予定。 対象者: [国際PBL] 学部2～3年次生 [海外ラボ体験] 学部3～4年次生 派遣期間: [国際PBL] 約1週間 [海外ラボ体験] 約1ヵ月程度 派遣人数: [国際PBL] 80人程度 [海外ラボ体験] 10人程度 	<p>1. 自己評価による達成度</p> <p>(I) 海外研究支援プログラムの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 派遣人数: 34人(大学院進学予定者および大学院1年次生の成績トップ) 派遣先: 北米、ヨーロッパ、アジアの大学等の20機関 ※ 成績優秀者を派遣するというステータスを持たせ、大学院で専攻する自身の研究を海外の大学等で実施できるという点は、本学のグローバル化に関する対外的なアピールをするうえで効果的。今後、さらなる定着に取り組む。 <p>(II) 国際PBLプログラムおよび海外ラボ体験プログラム(研究体験型学生交換プログラム)の実施</p> <p>[国際PBLプログラム]</p> <ol style="list-style-type: none"> 本学学生の派遣 <ul style="list-style-type: none"> 派遣人数: 74人(工学部36人、情報科学部34人、知的財産学部4人) 派遣先: 台湾科技大(台湾)、国立成功大学(同)、タマサート大学(タイ)、韓国国立芸術総合学校(韓国)、モリソン・フォースター外国法事務弁護士事務所(アメリカ)、パランカラヤ大学(インドネシア) 海外学生の受入 <ul style="list-style-type: none"> 受入人数: 45人 派遣元: 台北科技大学(台湾)、台湾科技大学(同) ※ 学生に様々な気付きを与え、大学院進学希望者を増やす効果も見込まれ、学内全体にグローバル化への機運を生む中心的なプログラムとなりつつある。 <p>[海外ラボ体験プログラム]</p> <ol style="list-style-type: none"> 本学学生の派遣 <ul style="list-style-type: none"> 派遣人数: 24人(工学部ロボット工学科・応用化学科、工学研究科生体医工学専攻) 派遣先: 台北科技大学(台湾)、台湾科技大学(同)

事業計画の目的、計画など	事業実績
<p>5. 支援内容: 学生の渡航費、プログラム実施実費等。 (学生の宿泊費は、協定校の負担)</p> <p>(Ⅲ) IAESTE (国際学生技術研修協会) 事業</p> <p>1. 内容: IAESTEが行う派遣事業(本学学生を海外インターンシップに派遣)および受入事業(海外の学生を本学で研修させる)に参画し、経済的支援を行う。</p> <p>2. 対象者: [派遣] 工学部・情報科学部2年次以上(大学院生含む) TOEIC600点以上 [受入] 世界各国のIAESTE選考基準による</p> <p>3. 期間: [派遣] 8週間以上1年以内 [受入] 8週間</p> <p>4. 人数: [派遣] 2人以内(認定試験受験料は5人まで) [受入] 2人以内</p> <p>5. 支援内容: [派遣] 認定試験料、交換手数料、渡航費、海外旅行保険料 [受入] 滞在費、通勤交通費</p>	<p>② 海外学生の受入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受入人数: 10人 ・派遣元: 台北科技大学(台湾) ・受入先: 工学部ロボット工学科の各研究室 <p>(Ⅲ) IAESTE(国際学生技術研修協会)による派遣および受入</p> <p>① 本学学生の派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・派遣人数: 2人(合格実績。派遣実施は来年度) <p>② 海外学生の受入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受入人数: 2人 ・派遣元: ガーナ、チェコ ・受入先: 環境ソリューションセンター <p>※ 来年度に向け、本学の各種プロジェクトに興味をもった海外学生より既に問合せがあり、海外での本学IAESTE受入への関心が高まっていると考えられる。今後IAESTE事務局と調整を取りつつ、受入の準備を進めていく。本事業は、異文化交流、共同研究を通じた、本学および本学学生のグローバル化を進める上で有効であり、現在関西地区でIAESTEを通じた学生受入を実施しているのは本学のみと対外的なアピールも期待できる。今後も今年度と同数の学生の受入体制を保持していく計画である。</p>
<p>【具体的指標・効果(成果検証)】</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル展開の基本方針の明示 ・国際連携推進委員会の設置 	
<p>(Ⅰ) 海外研究支援プログラム</p>	
<p>《具体的指標》 2014年度派遣者数(25人予定)の微増を目標にする(30人)。</p>	
<p>《期待される成果》</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の専門分野の研究を海外で経験させるプログラムのため、グローバルな教育・研究を展開する実践的な大学の印象を強めることが期待できる。 ・大学院生だけでなく大学院入学予定者も対象にしているため、本学大学院への進学者増加を目指す施策の一つとして機能することを期待できる。 ・今後、加速度的に進展すると思われるグローバル化社会において、本プログラムでの研究経験により、躊躇せずに世界に飛び出せる専門職業人を育成することが期待できる。 	
<p>(Ⅱ) 国際PBLプログラム及び海外ラボ体験プログラム</p>	
<p>《具体的指標》 2014年度の16人増で、派遣・受入合計105人を目標にする。</p>	
<p>《期待される成果》</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・在学中の比較的早い段階で海外の学生と協働する機会を得て、参加学生の海外への関心を涵養できる。 ・海外の学生と課題に取り組み、問題を解決して成果を競う国際PBLは本学の独創的なプログラムとして大学の広報ツールとして活用できる。 ・海外の学生との実習や研究体験が学生に自信を与え、帰国後の学業への取り組み姿勢が向上することを期待できる。 ・英語コミュニケーションに対する抵抗感を払拭して海外学生との交流で積極的な姿勢を学び取ることを期待できる。 	
<p>(Ⅲ) IAESTE(国際学生技術研修協会)事業</p>	
<p>《具体的指標》 受験合格者数2人を目標にする(派遣は2016年度)。本学への受入れは、2人を2ヵ月間(2研究室)。</p>	
<p>《期待される成果》</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・海外の研究機関でインターンシップ生として実務を経験し、責任の伴う高いレベルの仕事を経験できるため、ハイレベルな海外プログラムを学生に提供することができる。 	
<p>2. 実施した施策</p>	
<p>(Ⅰ) 海外研究支援プログラムにおける学生派遣</p>	
<p>(Ⅱ) 国際PBLプログラムおよび海外ラボ体験プログラムにおける学生派遣と受入</p>	
<p>(Ⅲ) IAESTE事業における学生受入と派遣学生募集</p>	
<p>3. その他</p>	
<p>2014年に定めた「グローバル展開の基本方針」に沿って事業を進めるが、事業予算削減に伴い、規模の見直しは必要。</p>	
<p>今年度より長期交換留学制度を開始し、協定校であるフィンランドのタンペレ工科大学に1人の学生を、2015年8月から約10カ月の予定で派遣している。また、同大学への2016年度の派遣を応募した結果、1人の派遣準備を進めている。韓国の大田大学には、書類審査、面接を通過した2人を、約10カ月と約1年の予定で、2016年2月25日より派遣している。今後も本制度について広く学生に周知し、本学におけるグローバル展開の1つとしての定着を目指す。</p>	
<p>また、グローバル人材育成事業として、語学研修・文化体験プログラムや、各学部学科による短期研修型のプログラムが実施されている。国際連携推進委員会において、人材育成の観点から情報共有や各プログラムのPDCAサイクルを実現している。年度初めに学生に全プログラムを紹介する冊子を配付したり、随時、ガイダンスや報告会を実施したり、SNSを通じた情報発信などを行っており、この数年間で、学内におけるグローバル化に対する認識が向上しているものとする。</p>	
<p>事業全般において、どのプログラムも計画が順調に進んでおり、目標の指標を達成もしくはそれ以上の成果をあげている。</p>	

3) 摂南大学：2件

事業計画の目的、計画など	事業実績
<p>No.1 大学・大学院の改組事業 《 学長室企画課 》</p> <p>【実施計画・必要性・目的等】</p> <p>《実施計画》</p> <p>I 認可申請等事業</p> <p>① 大学院理工学研究科生命科学専攻(D)の設置(課程変更) (2015年3月末認可申請、2015年8月末認可、2016年4月開設)</p> <p>② 大学院看護学研究科看護学専攻(M)の設置 (2015年3月末認可申請、2015年8月末認可、2016年4月開設)</p> <p>③ 大学院(研究科・専攻)における収容定員の変更 (2015年3月末届出)</p> <p>④ 学部(学科)における収容定員の変更 (2015年3月末認可申請、2015年6月末認可)</p> <p>II 改組検討事業</p> <p>① 新学部・学科の設置の検討</p> <p>② 既設学部・学科における収容定員見直しの検討</p> <p>《必要性・目的》</p> <p>I 認可申請等事業</p> <p>大学院においては、理工学研究科生命科学専攻(M)および看護学部看護学科の在学生の進学希望に応えるため、理工学研究科生命科学専攻(D)および看護学研究科看護学専攻(M)を設置する。また、併せて法学研究科法律学専攻(M)、国際言語文化研究科国際言語文化専攻(M)の収容定員変更、経営情報学研究科経営情報学専攻(D)の学生募集停止および収容定員の変更を行う。</p> <p>大学においては、理工学部機械工学科、外国語学部、薬学部および看護学部を除いた学部・学科で収容定員変更を行う。</p> <p>II 改組検討事業</p> <p>社会のニーズや時代にマッチした教育体制とするべく、既設の学部・学科・コースの改組・再編を検討するとともに、新学部・学科の設置検討や収容定員の見直しなどを検討する。これにより、大学の改革姿勢を社会にアピールし、ブランド力の向上につなげる。</p> <p>【具体的指標・効果(成果検証)】</p> <p>《実施時期》</p> <p>I 認可申請等事業 2015年度(2016年度開設)</p> <p>II 改組検討事業 2015年度</p>	<p>1. 自己評価による達成度</p> <p>当初の計画どおり、申請および届出期限内に全ての手続きを完了させることができた。</p> <p>2. 実施した施策</p> <p><大学院理工学研究科生命科学専攻(D)></p> <p>2015/3 摂南大学大学院理工学研究科生命科学専攻課程変更認可申請書提出</p> <p>2015/6 摂南大学大学院理工学研究科生命科学専攻課程変更認可申請に係る補正申請書提出</p> <p>2015/8 認可</p> <p><看護学研究科看護学専攻(M)></p> <p>2015/3 摂南大学大学院看護学研究科設置認可申請書提出</p> <p>2015/6 摂南大学大学院看護学研究科設置認可申請に係る補正申請書提出</p> <p>2015/8 認可</p> <p><大学院(研究科・専攻)における収容定員の変更></p> <p>2015/12 摂南大学大学院収容定員変更に係る学則変更届出書提出</p> <p><学部(学科)における収容定員の変更></p> <p>2015/3 摂南大学収容定員増加に係る学則変更認可申請書提出</p> <p>2015/6 認可</p> <p>3. その他</p> <p>文部科学省に申請および届出した計画どおり履行するよう、関係部署と調整しながら業務を遂行する。</p> <p>2017年度以降の新学部・学科の設置および既設学部・学科における収容定員見直しについては、摂大改組等検討WGで検討中である。</p>
<p>No.2 創立40周年記念事業 《 学長室企画課 》</p> <p>【実施計画・必要性・目的等】</p> <p>《実施計画》</p> <p>2015年度実施分</p> <p>① Smart and Human研究機構の設置(担当:副学長・教務部長)</p> <p>② 地域医療研究センターの設置(担当:枚方事務室)</p> <p>③ キャリア教育再構築プロジェクト(担当:教務部長・就職部長)</p> <p>④ 創立40周年記念式典の実施(担当:庶務課)</p>	<p>1. 自己評価による達成度</p> <p>当初の計画どおり、2025年の創立50周年を見据えたコンパクトな記念事業としたが、記念式典等、教職員が一丸となって取り組むことにより本学のタグラインである‘Smart and Human’の精神を具現化する多彩な事業を展開することができた。10年後の姿を考え、新たに50周年に向けてさらなる成長を目指す。</p> <p>2. 実施した施策</p> <p>① Smart and Human研究機構の設置(担当:副学長・教務部長) 創立40周年記念事業として計画したSmart and Humanの精神</p>

事業計画の目的、計画など	事業実績
<p>⑤ 特別講演会の実施(担当:企画課) ⑥ 創立40周年記念誌の発行(担当:企画課) ⑦ 大学祭をはじめとした学生企画イベント(担当:学生課) など</p> <p>◀必要性・目的▶ 2025年の創立50周年を見据えたコンパクトな記念事業とする。本学のタグラインである‘Smart and Human’の精神を具現化する諸事業を展開することで、本学のコンセプトを明確に打ち出し、ブランドの確立を目指す。</p> <p>【具体的指標・効果(成果検証)】</p> <p>◀実施時期▶ 2015年度</p>	<p>を具現化する、学内外の連携研究を推進する包括的な枠組みの第一段階として、2015年4月に「地域医療研究センター」、「地域総合研究所」、「融合科学研究所」を開設した。 今後、これらの組織を充実させていくとともに、本学の研究全体を包含する組織(Smart and Human研究機構)として段階的に整備し、摂南大学長期ビジョン「SETSUDAI VISION 2025」の5つの目標のひとつに掲げている「持続可能な人類社会実現に資する研究の強化」の実現を目指す。</p> <p>②地域医療研究センターの設置(担当:枚方事務室) 2015年4月、星ヶ丘医療センター(大阪府枚方市星丘)内に「地域医療研究センター」を設置した。本学のタグラインSmart and Humanの理念のもと、「持続可能な社会の実現」の一環として、高齢者社会に必要な不可欠である在宅医療を含む地域医療への貢献および地域医療研究を推進している。 また、2015年12月13日には大学院看護学研究科の入学個別相談会を兼ねて公開講座を開催し、「看護の実践力と教育力の向上～知のネットワークの構築と高度な専門職業人を目指して～」をテーマに講演した。</p> <p>③キャリア教育再構築プロジェクト(担当:教務部長・就職部長) 本プロジェクトでは、自ら課題を発見・解決できる知的専門職業人を育成する大学として、学生個々のキャリア形成という観点から、大学の正課内外を通じた教育の取り組みがSmart and Humanの精神に合致した方向でよりいっそう深化するためのあり方を検討し、2015年10月答申を出した。今後は、その方向性を全教職員が共有し、学生一人ひとりに「ライフ・プランニング」や「キャリア・プランニング」を行い、自らが能力開発を持続できる力を養い、生涯にわたって、家庭・地域社会、国際社会において活躍できる知識・技能・態度を修得できる環境を提供していく。さらに、専門教育やその他の教育プログラムによって、持続可能な社会の実現に向け、社会に貢献できる人間性豊かな知的専門職業人を養成していく。</p> <p>④創立40周年記念式典の実施(担当:庶務課) 2015年10月31日、ホテルニューオータニ大阪で創立40周年記念感謝の会を開催し、来賓、学生代表、教職員を含む学園関係者など約400人が出席した。 第一部の記念講演会では、国連友好協会ニューヨーク代表池亀美枝子氏に「変動する世界情勢と国際貢献」をテーマに自他国への理解を深め、自らの考えを発信できる人材育成の重要性について講演いただいた。 第二部の懇親会では、久禮哲郎理事長とこの日をもって任期満了の今井光規学長による挨拶に続き、来賓を代表し北川法夫寝屋川市長から祝辞、伏見隆枚方市長から乾杯の発声をいただき、和やかな歓談となった。 最後に、八木紀一郎新学長(2015年11月1日就任)がこれまでの今井学長の功績を称えるとともに、謝辞を述べ、感謝の会は盛況のうちに閉会した。</p> <p>⑤特別講演会の実施(担当:企画課) 2015年12月、登山家の栗城史多氏を招き「NO LIMIT～限界という壁を越えて～」をテーマに講演いただいた。栗城氏はエベレスト西稜で両手・両足・鼻が凍傷になり、手の指9本の大部分を失うも、その後ブロードピーク8,047mに単独・無酸素で登頂し見事復帰、現在もあきらめずにエベレストの登頂を目指して挑戦を続けている。講演会では映像を交えながらの栗城氏の臨場感あふれる語りで、学生や教職員250人で満席となった会場は熱気に包まれた。本学学生を元気づけるとともに、教養の幅を広め、将来に向かって一歩踏み出す力を醸成する貴重な講演となった。</p> <p>⑥創立40周年記念誌の発行(担当:企画課) 創立40周年記念誌「Setsunan 40th Anniversary」を発行し、2015年10月31日開催の創立40周年記念感謝の会で来場者全員</p>

事業計画の目的、計画など	事業実績
	<p>に配付した。内容は、建学の精神や本学の歴史・キャンパス紹介をはじめ、「グローバルな人材育成を目指す取り組み」と題して、【実学教育】【地域・社会貢献】【国際】【環境】の4分野において本学が現在注力している取り組みを特別ページとしてまとめた。</p> <p>また、本記念誌の内容を基に本学のこれまでの歩みを映像化し、式典において上映した。</p> <p>教職員が本学の使命を再認識するとともに、学園関係者以外の方には本学の歴史や事業への取組および組織の使命を理解していただくことで、社会的信頼を高めることに貢献した。</p> <p>⑦大学祭をはじめとした学生企画イベント(担当:学生課)</p> <p>2015年10月、第41回摂大祭のエコシビル部模擬店において、「摂大エコ&スマート大作戦(エコスマ)」を実施した。商品をリユース食器で提供することで、トレー廃棄物の削減に取り組んだ。リユース食器の利用促進にも工夫を凝らした結果、食器回収枚数は500枚となった。本学は今後も持続可能な社会の実現を目指した“Smart Campus”をつくるべく、廃棄物削減への対策を考え、環境保全に努める。</p> <p>3. その他</p> <p>なし</p>

4) 広島国際大学：1件

事業計画の目的、計画など	事業実績
<p>No.1 広島国際大学 2015年度大学改革事業 《 企画課、庶務課、会計課、営繕課、呉庶務課、教務課、呉教務課、総合教育センター、学生課、呉学生課、入試センター、キャリアセンター、医療経営学部事務室 》</p> <p>【実施計画・必要性・目的等】</p> <p>《実施計画》</p> <p>[1] 教育改革 専門職連携教育(IPE)をはじめ、医療系総合大学として2016年度に新カリキュラムの導入に向けた教育改革を推進する。また、教育の体系化、医療系総合大学としての基礎教育や教養教育の在り方も含めて、本学の学生が10年後、20年後の社会でトップリーダーとして活躍できる魅力ある教育の仕組みを構築する。</p> <p>(1) 教育課程の再編(スタンダード科目の導入)</p> <p>(2) 初年次教育の充実に向けた取り組み ・基礎学力の向上を図り、自学を進める能力を育成 ・数理教育の充実 ・アクティブラーニング(PBL、グループワーク)の積極的な導入</p> <p>[2] 教育環境整備 初年次教育の段階から、学部・学科の垣根を越えた学生同士のコミュニケーション能力を高め、チーム医療を学ぶ専門職連携教育(IPE)の充実を図るため、様々な学部・学科の学生と共に学べる教育・学習環境を整備する。</p> <p>(1) 所属キャンパス以外でも受講が可能な時間割編成とし、様々な学部・学科の学生と共に学べる環境の整備</p> <p>(2) 3キャンパスにおいて同時受講できる教育環境の整備(遠隔講義システムの導入等)</p> <p>[3] 学生の生活環境整備 学生が充実した学生生活が行えるよう、施設や環境の整備を行う。 (東広島キャンパス)</p>	<p>1. 自己評価による達成度</p> <p>[1] 教育改革</p> <p>(1) 「第1次広国教育スタンダード」を確立させ、健康・医療・福祉の総合大学としての新カリキュラム導入に向けて、総合教育センター教学企画運営部門、共通教育検討部門、専門職連携教育(IPE)推進部門が連携し、「スタンダード科目」のシラバス・成績評価方法等を整備した。</p> <p>(2) 5教科の基礎・基本を学び直すe-learning(広国ドリル)を導入し、前期に各学科の1年次生を対象に、ドリル実施前と実施後の確認テストを行った。さらに、2016年度入学予定者を対象として、入学前教育に広国ドリルを導入した。また、専門職連携教育(IPE)Step1において、全学1年次生を対象にグループワークを実施するなど、アクティブラーニングの積極的な導入・推進を図った。</p> <p>[2] 教育環境整備</p> <p>(1) 2016年度より、学科混成での専門職連携教育(IPE)の実施およびオープン科目の開講に向け、時間割の調整を行った。加えて、キャンパス間巡回バスについても、利便性の向上を図るため、講義の開始時間を考慮したダイヤ改正を行った。また、呉キャンパスにおいてラーニング・コモンズを整備した。</p> <p>(2) 遠隔講義システムを利用して実施する授業科目を選定し、3キャンパスにおいて同時受講できる教育環境を整備した。</p> <p>[3] 学生の生活環境整備</p> <p>2. 実施した施策</p> <p>[1] 教育改革</p> <p>(1) 「第1次広国教育スタンダード」に基づいた、2016年度新カリキュラムにおいて導入される「スタンダード科目」の開講に向け、カリキュラムマップやシラバスの作成および成績評価方法等に</p>

事業計画の目的、計画など	事業実績
<p>(1) 学生寮の利活用 (2) 公衆無線LAN (Wi-Fi) の設置 (呉キャンパス) (1) 学生の福利厚生の実化 (2) 老朽化した建物(8・9号館、体育館、クラブハウス等)の対応および利活用 (全キャンパス) (1) 学生の学習環境を充実させるため、各施設の利用可能日時を延長する。</p> <p>【必要性・目的】</p> <p>本学を取り巻く状況は、18歳人口の減少、中四国地方における著しい地域外流出、競合他大学における学部・学科の新設や文部科学省が進める教育改革への対応など厳しい状況を増している。</p> <p>このような厳しい環境下において、本学が安定的に学生を確保し、将来にわたって持続的発展を遂げるためにさらなる大学改革を行う。2015年度においては、「広島国際大学の改革プランと持続可能性」も見据え、18歳人口の減少が始まる2018年度以降も本学の持続的な発展を可能とするため、大学改革に取り組む。</p> <p>【具体的指標・効果（成果検証）】</p> <p>[1] 教育改革 (1) 教育スタンダードの確立および、医療系総合大学としての新カリキュラムを確立する。 (2) e-learningを活用した学習支援体制を構築する。</p> <p>[2] 教育環境整備 (1) ・ラーニングコモンズの整備、充実。 ・所属キャンパス以外で受講できる教育環境(時間割等)の整備。また、3キャンパス間を巡回するバスを運行し、学生がキャンパス間を移動する利便性の向上を図る。 (2) 遠隔講義システムを導入する。</p> <p>[3] 学生の生活環境整備 (東広島キャンパス) (1) 日照不足、人目が気になるなどにより入居率が低い学生寮の1階部分を寮生以外が宿泊できるように整備し、国家試験等で深夜まで自習学習をしている学生に開放する。 (2) コミュニティールーム等、学生が集う場所に公衆無線LAN (Wi-Fi) を設置することで、学内でネットワークの接続が可能となる場所を構築する。 (呉キャンパス) (1) 建築年数が耐用年数(50年)前後の建物を解体し、学生の複合的な活動拠点の場となる建物の新築を検討する。 (全キャンパス) (1) 自習室、コミュニティールーム、食堂、図書館等、学習可能なスペースを確保する。また現状の自習施設について利用可能日時を変更し、学習環境の充実を図る。</p>	<p>ついて整備した。</p> <p>(2) 初年次教育の充実および基礎学力の向上を図るため、英語・国語・数学・理科・社会科目の基礎・基本を学び直すe-learning(広国ドリル)および医学・看護・健康・保健分野の様々な映像コンテンツを視聴することが可能な、学術映像配信システム(ビジュランクラウド)を導入した。「広国ドリル」については、一部の学科において、2016年度入学予定者を対象とした入学前教育にも活用した。また、アクティブラーニングについては、専門職連携教育(IPE) Step1において、各専門職がケアにどのように関わっているのか議論し、ポスターにまとめるグループ学修を全学的に実施した。加えて、今後更なるアクティブラーニングの推進を図るため、教員へのファシリテーター研修を実施した。</p> <p>[2] 教育環境整備 (1)、(2) ① 2016年度より、医療栄養学科を除く1年次生全員が、専門職連携基礎演習を同日・同時限に学科混成グループにて実施できるよう整備した。 火曜日に、東広島キャンパス在籍の学生は所属キャンパス内で東広島キャンパス設置の学科混成で実施し、呉キャンパスと広島キャンパス在籍の学生については、広島キャンパスの学生が呉キャンパスへ移動し、呉キャンパスと広島キャンパス設置の学科混成で実施することとした。 ② 2016年度より、所属キャンパス以外でも講義が受講できるオープン科目を導入した。 なお、対象科目は「共通教育科目」のうち「教養科目」と「共通基礎」の科目とし、1年次の月曜日に実施する。 ③ 呉キャンパス1号館2階にラーニング・コモンズを整備した。 ④ 2016年度は、現有の遠隔講義システムにて実施する授業科目を2科目設定し、運用を含め試行する。</p> <p>[3] 学生の生活環境整備 学生が充実した学生生活が行えるよう、施設や環境の整備を行った。 (東広島キャンパス・呉キャンパス) (1) 学生寮・学生研修棟の利活用 2015年4月から、日当たりが悪い、人目が気になるなどにより入居率が低い学生寮・学生研修棟の1階部分の一部を研修室として整備し、学外実習時に学生の宿泊拠点等として開放した。 (2) 学生寮・学生研修棟の1階部屋料の改定 2016年4月から、日当たりが悪い、人目が気になるなどにより入居率が低い学生寮・学生研修棟の1階の部屋料を月額20,000円(共益費込)に改定した。 (3) 兄弟姉妹および学園内進学者への学生寮・学生研修棟部屋料の優遇制度の導入 2016年4月から、①本学へ兄弟姉妹で同時に在籍し、兄弟姉妹で同時に学生寮・学生研修棟へ入居する場合 ②学園内進学者が学生寮・学生研修棟へ入居する場合、部屋料を月額20,000円(共益費込)に改定した。 (呉キャンパス) (1) 老朽化した建物の解体 2016～2017年度に、建築年数が耐用年数(50年)前後の耐震上問題のある老朽建物(3・4・8・9号館、屋外トイレ)を解体するよう計画している。 (2) 学生研修棟入居者の車両登録 2016年4月から、学生研修棟入居者に一定の条件のもと、車両登録を認めるよう整備した。 (全キャンパス) (1) 各施設の利用可能時間の延長 学生の学修環境を充実させるため、各施設の利用可能日時を</p>

事業計画の目的、計画など	事業実績
	<p>見直し、延長した。また、日・祝日の利用については、原則施設使用願の提出を廃止し、学生が利用しやすくなるよう環境を整えた。</p> <p>(2) 公衆無線LAN(ドコモWi-Fi)の設置 2015年8月から、コミュニティールーム等、学生が集う場所に公衆無線LAN(ドコモWi-Fi)を設置し、学生の利便性を向上させた。</p> <p>〈その他〉</p> <p>(1) 広島国際会館1号館(教職員宿舎)の活用 2016年4月から、広島国際会館1号館を大学管理の学生専用宿舎として開放する。2LDK・3LDKの部屋も開放し、ルームシェアなど多様な選択肢を提供できるよう整備した。</p> <p>3. その他</p> <p>[1] 教育改革</p> <p>(1) 「第1次広国教育スタンダード」が確立したことから、「第2次広国教育スタンダード」導入に向けたカリキュラムの検証を開始する。</p> <p>(2) 組織的な学修支援体制構築のため、各学科の教員より選出した委員と数学・理科担当教員を中心とした委員で構成される基礎学力推進WG(総合教育センター学力推進部門内に設置)において、入学前教育の実施状況も踏まえ、e-learningを活用した学修効果の検証を行う。</p> <p>[2] 教育環境整備</p> <p>(1)、(2)</p> <p>① 専門職連携教育(IPE)について、総合教育センターIPE推進部門の方針に沿って実施可能な場所の確保、時間割を検討する。</p> <p>② 所属キャンパス以外でも受講できるオープン科目について、2年次は水曜日に導入できるよう調整する。</p> <p>③ 遠隔講義システムについて、2016年度に運用状況を検証し、2017年度以降、遠隔講義の継続および拡大・縮小を検討する。</p> <p>④ 学生の移動手段である、3キャンパス巡回バスのダイヤについて、より利便性の向上を図るよう、増便等を検討する。</p> <p>[3] 学生の生活環境整備</p> <p>2016～2017年度に、建築年数が耐用年数(50年)前後の耐震上問題のある呉キャンパスの老朽建物(3・4・8・9号館、屋外トイレ)を解体するが、その後のキャンパス環境整備について検討する。</p>

5) 常翔学園中学校・高等学校：1件

事業計画の目的、計画など	事業実績
<p>No.1 ICT教育推進事業 《 高校教頭・事務室 》</p> <p>【実施計画・必要性・目的等】</p> <p>《実施計画・時期》</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ICT教育推進プロジェクト(仮称)」を発足 発足時期:2015年4月 構成員:教職員から選抜(校務の一環として実施) 期間:2015年4月～2016年3月(予定) 会議開催:毎月1回程度(予定) ICT教育先進校の視察 実施時期:2015年6～8月 ICT教育先進校と言われる学校を視察し、情報共 	<p>1. 自己評価による達成度</p> <p>ICT教育推進プロジェクトにおいて、様々な議論を交わし、他校の状況も十分に検討しながら来年度以降の本校におけるICT教育の内容を詰めることができた。ICT教育導入に係る予算の確保には苦労したが、最終的には無事予算計上できた。また、並行して行った業者との折衝により、必要項目を厳密に精査し当初見積金額から大幅に減額できたと同時に、補助金申請方法を見直し、補助金獲得見込額も増額となった。</p> <p>2. 実施した施策</p>

事業計画の目的、計画など	事業実績
<p>有を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設改修工事 <ul style="list-style-type: none"> 学内手続:2015年7月 工事完成:2016年8月(目標) (注)同プロジェクトの進捗状況により、工事完成時期(目標)を変更する。 2016年度当初予算への組込 <ul style="list-style-type: none"> (注)同プロジェクトの検討結果により予算申請(改修工事・備品等)を行う。 <p>《必要性・目的》</p> <p>情報活用能力の育成と学習目標を達成することを目的としたICT教育の重要性が、昨今急激に高まってきている。公立の小中学校でも全校導入済みという自治体が増えつつあることなどからも、これらの教育を受けた児童・生徒が受験期を迎えるまでに、本校も体制を整えておく必要があると考える。</p> <p>このため、高校内に「ICT教育推進プロジェクト(仮称)」を発足させ、システム等の導入や問題点等の検討を行い、2016年度中のシステム導入を目指す。</p> <p>【具体的指標・効果(成果検証)】</p> <p>ICT教育システムの導入</p> <ol style="list-style-type: none"> システム導入計画の策定・実行 教育プログラムおよび設備・システム等の検討・決定 教員用タブレット端末の購入 	<ul style="list-style-type: none"> 「ICT教育推進プロジェクト」発足 <ul style="list-style-type: none"> 発足時期:2015年4月 構成員:田代教頭(プロジェクトリーダー)を含む教職員11名 (校長から任命) 会議開催:発足以来計10回開催(臨時の小委員会を含めると20回) ICT教育先進校の視察 <ul style="list-style-type: none"> 近大付属中学校・高等学校 = 6月、12月 立命館中学校・高等学校 = 6月 立命館守山中学校・高等学校 = 7月 立命館宇治中学校・高等学校 = 11月 2016年度当初予算への組込 <ul style="list-style-type: none"> 財務部長との予算折衝の結果、承認済み 当該事業発注業者との金額折衝 <ul style="list-style-type: none"> 当初見積金額より、2,700万円程度減額 ※ 工事内容明細書が必要な工事にはならないことが判明し、施設改修工事に関しては、特に学内手続きの必要なし <p>3. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 2015年度補正予算成立後の整備 <ol style="list-style-type: none"> ①アクセスポイントの設置 = 35か所 ②一部の教員用タブレット端末の購入 = 25台(新年度準備用) ③一部の教員用タブレット端末への専用アプリの購入 = 25台分 2016年度予算での整備 <ol style="list-style-type: none"> ①アクセスポイントの設置 = 64か所(補助金対象) ②生徒用タブレット端末の購入=100台(補助金対象) ③生徒用タブレット端末への専用アプリの購入 = 100台分 ④全教職員用タブレット端末の購入 = 100台 ⑤全教職員用タブレット端末への専用アプリの購入 = 100台分 2016年2学期以降、中学1年生を中心にICT教育を開始予定

6) 常翔啓光学園中学校・高等学校：1件

事業計画の目的、計画など	事業実績
<p>No.1 学力向上対策 《 中学・高校 進路指導部 》</p> <p>【実施計画・必要性・目的等】</p> <p>《必要性・目的》 本校の進学実績向上を目的として、補習・講習教育のさらなる充実を図る。</p> <p>《実施計画》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● これまでの「K1(ケイワン)ゼミ」の実施内容を再編成して、目的を特化する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 成績上位層を対象に、難関国公立大学進学に向けた特定教科の講座を開講。(通年開講) ・ 成績中間層の引き上げを図るための講座を開講。(通年開講) ● 本校教員による補習教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 課外における通常授業の補習を、成績上位層を中心に組織的に実施する。(通年・季節開講) <p>【具体的指標・効果(成果検証)】</p> <p>《実施時期》 2015年4月～2016年3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 通年開講 ● 季節開講(夏期 7～8月、冬期 12月、春期 3月) <p>《成果検証》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 国公立大学合格者 30人 ● 難関私立大学合格者 80人 	<p>1. 自己評価による達成度</p> <p>K1ゼミは講師の授業力により、生徒の満足度が左右される。前期終了時点で満足度調査を行い、後期に向けての改善点をあげた。実力養成に役立ったと考える講座は生徒の人気も高い。一方では満足度が低い講座もあるため、講師の交代も含めて次年度への改善を行う。</p> <p>本校教員による補習教育は、通常授業の延長としての補習を実施するほか、指名制補習などを実施した。年間行事日程の関係で十分とは言えないが、放課後の補習を積極的に行う場面も増えてきた。特に高2の上位クラスでは、英数の補習を定期的に行ない、3年生でも同様の取り組みを行なうよう計画する。</p> <p>なお、2016年度入試結果(現役生徒)は、国公立大学合格者が24人(国立19人、公立5人)、難関私立大学合格者が118人(関関同立113人、早慶MARCH5人)となった。</p> <p>2. 実施した施策</p> <ul style="list-style-type: none"> ● K1ゼミの目的を特化 予備校講師による大学合格力養成講座を開講した。 高3生:4教科7講座 高2生:3教科4講座 高1生:2教科2講座 ・ 高3・2生は、教科により①理解度に応じて深い内容の講座、②センター試験対応などの基礎学力の定着を目指した講座の2種類を開講した。 ・ 前年度は学期ごとの募集としたが、今年度は前・後期制の募集に変更し、開講科目を増設した。 ● 本校教員による補習教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 成績上位層を対象とした特別合宿 高2生:「トップ・K特合宿」 4月8～10日(石清水八幡宮研修センター) 「I類・K特対象 英数特別講習」 11月16～12月22日の間に各5回、8～9限目 3学期も同様に各5回、8～9限目に実施 高1生:「トップ・K特合宿」 3月23～25日(南港・大阪アカデミア) ◇ センター入試対策演習 高3生:「センター演習」7月25～31日 ◇ 大学受験・大学進学への意識向上 高3生:「勉強合宿」8月3～5日(南港・大阪アカデミア) 高1生:「勉強合宿」9月9～12日(大津プリンスホテル) ◇ 通常授業のフォローと、科目に特化した内容の講習 高3生:「夏期進学講習」7月13～24日 「冬期進学講習」12月10～21日、12月26～30日、 1月4～14日 高2・1生:「夏期講習」7月13～24日 「冬期講習」12月10～21日 「春期講習」3月14～17日 ◇ 新入生を対象とした学習会 新入生:「入学前教育」3月25～26日 <p>3. その他</p> <p>前述のとおり、K1ゼミでは生徒へのアンケート調査等の結果を検証し、より学力レベルに即応した形態にすべく検討を行う。</p>

事業計画の目的、計画など	事業実績
	<p>高3生については入試直前までフォローアップ態勢を実施する。</p> <p>3月の校舎改造工事のため、例年と同様の講習はできなかったが、高2生の上位クラス対象の春期講習は実施できた。</p> <p>高2・1生の春期講習、ならびにトップ層講習については、3月の校舎改造工事予定が決まり次第、日程・場所の設定を行う予定。</p>

3. 各学校の組織の改編

(1) 新設・改組等変更

■大阪工業大学

なし

■ 摂南大学

なし

■ 広島国際大学

1. 学部設置

心理学部 心理学科（入学定員：90人、編入学定員：10人、収容定員：380人）

〔本件にかかる手続き〕

1) 学部設置届出(2014年6月提出)

2. 定員変更

総合リハビリテーション学部 リハビリテーション支援学科

入学定員	60人	収容定員	240人
→ 入学定員	30人 (△30)	収容定員	120人 (△120人)

〔本件にかかる手続き〕

なし ※ 心理学部の設置届出に含まれる。

3. 学生募集停止

・ 大学院

心理科学研究科 感性デザイン学専攻 修士課程（入学定員：5人、収容定員：10人）

※2015年4月からの学生募集を停止し、在学生の修了等を待って廃止予定。

〔本件にかかる手続き〕

1) 学生募集停止報告(2014年7月提出)
2) 学則変更届出(2014年11月提出)

・ 学部

心理科学部 臨床心理学科（入学定員：100人、編入学定員：10人、収容定員：420人）

コミュニケーション心理学科（入学定員：60人、編入学定員：5人、収容定員：250人）

※2015年4月からの学生募集および2017年4月からの編入学生募集を停止し、在学生の修了等を待って廃止予定。

〔本件にかかる手続き〕

1) 学生募集停止報告(2014年6月提出)
※学則変更届出は、心理学部設置届出に含む。

(2) 申請・届出等

■大阪工業大学

1. 収容定員変更

・ 学部(2016年3月認可申請)

工学部

都市デザイン工学科	入学定員：90人	編入学定員：5人	収容定員：370人
	→ 入学定員：100人 (+10)	編入学定員：5人	収容定員：410人 (+40)
建築学科	入学定員：140人	編入学定員：5人	収容定員：570人
	→ 入学定員：150人 (+10)	編入学定員：5人	収容定員：610人 (+40)
機械工学科	入学定員：130人	編入学定員：5人	収容定員：530人
	→ 入学定員：140人 (+10)	編入学定員：5人	収容定員：570人 (+40)
電気電子システム工学科	入学定員：115人	編入学定員：5人	収容定員：470人
	→ 入学定員：125人 (+10)	編入学定員：5人	収容定員：510人 (+40)
電子情報通信工学科	入学定員：100人	編入学定員：5人	収容定員：410人
	→ 入学定員：110人 (+10)	編入学定員：5人	収容定員：450人 (+40)
応用化学科	入学定員：120人	編入学定員：5人	収容定員：490人

環境工学科	→ 入学定員：130人 (+10)	編入学定員：5人	収容定員：530人 (+40)
	入学定員：70人	編入学定員：5人	収容定員：290人
生命工学科	→ 入学定員：75人 (+5)	編入学定員：5人	収容定員：310人 (+20)
	入学定員：65人	編入学定員：5人	収容定員：270人
	→ 入学定員：70人 (+5)	編入学定員：5人	収容定員：290人 (+20)
情報科学部			
コンピュータ科学科	入学定員：95人	編入学定員：5人	収容定員：390人
	→ 入学定員：105人 (+10)	編入学定員：5人	収容定員：430人 (+40)
情報システム学科	入学定員：95人	編入学定員：5人	収容定員：390人
	→ 入学定員：105人 (+10)	編入学定員：5人	収容定員：430人 (+40)
情報メディア学科	入学定員：95人	編入学定員：5人	収容定員：390人
	→ 入学定員：105人 (+10)	編入学定員：5人	収容定員：430人 (+40)
情報ネットワーク学科	入学定員：95人	編入学定員：5人	収容定員：390人
	→ 入学定員：105人 (+10)	編入学定員：5人	収容定員：430人 (+40)

2. 廃止

- 大学院(2015年6月学則変更届出)
工学研究科 経営工学専攻 博士前期課程、博士後期課程 (2014年度から学生募集停止)
- 学部(2016年2月学則変更届出)
工学部 技術マネジメント学科 (2010年度から学生募集停止)

■ 摂南大学

1. 研究科設置(2015年3月設置認可申請、6月補正申請)

看護学研究科 看護学専攻 修士課程 (入学定員：6人、収容定員：12人)

2. 博士後期課程設置(2015年3月課程変更認可申請、6月補正申請)

理工学研究科 生命科学専攻 博士後期課程 (入学定員：2人、収容定員：6人)

※博士後期課程の設置により、「理工学研究科 生命科学専攻 (修士課程)」は博士前期課程に変更。

3. 収容定員変更

- 大学院(2015年12月学則変更届出)
法学研究科 法律学専攻 修士課程
入学定員：15人、収容定員：30人 → 入学定員：5人 (△10)、収容定員：10人 (△20)
- 国際言語文化研究科 国際言語文化専攻 修士課程
入学定員：10人、収容定員：20人 → 入学定員：5人 (△5)、収容定員：10人 (△10)

4. 学生募集停止

- 大学院(2015年3月報告)
経営情報学研究科 経営情報学専攻 博士後期課程 (入学定員：3人、収容定員：9人)
※2016年4月からの学生募集を停止し、在学生の修了等を待って廃止予定。

5. 廃止

- 大学院(2015年12月廃止届出)
経営情報学研究科 経営情報学専攻
博士前期課程 (2014年度から学生募集停止)
博士後期課程 (2016年度から学生募集停止、2015年度秋入学志願者および在籍者なし)
- 大学院(2016年3月廃止届出)
工学研究科
機械・システム工学専攻 博士前期課程 (2014年度から学生募集停止)
電気電子工学専攻 博士前期課程 (2014年度から学生募集停止)
- 学部(2015年5月学則変更届出)
工学部 都市環境システム工学科、マネジメントシステム工学科 (2010年度から学生募集停止)

■ 広島国際大学

1. 収容定員変更

- 学部(2015年4月学則変更届出)
医療福祉学部 医療福祉学科 入学定員：120人、 編入学定員：10人、 収容定員：500人
→ 入学定員：100人 (△20)、 編入学定員：10人、 収容定員：420人 (△80)
- 医療経営学部 医療経営学科 入学定員：140人 収容定員：560人
→ 入学定員：90人 (△50) 収容定員：360人 (△200)

(3) 年次進行中（未完成）の学部等

大学名称	申請学部等	申請区分	開設年度
摂南大学	看護学部 看護学科	認可	2012
	大学院 薬学研究科 医療薬学専攻(D)	届出	2012
	大学院 理工学研究科 生産開発工学専攻(M)	届出	2014
	大学院 理工学研究科 生命科学専攻(M)	認可	2014
	大学院 経済経営学研究科 経済学専攻(M)	届出	2014
	大学院 経済経営学研究科 経営専攻(M)	届出	2014
広島国際大学	大学院 薬学研究科 医療薬学専攻(D)	認可	2012
	保健医療学部 医療技術学科	届出	2013
	総合リハビリテーション学部 リハビリテーション学科	届出	2013
	総合リハビリテーション学部 リハビリテーション支援学科	届出	2013
	医療栄養学部 医療栄養学科	認可	2014

4. 各部門の重点事業 実績報告

(1) 各部門の重点事業

2015年2月13日(金)経営会議承認

1) 広島国際大学

▶大学機関別認証評価事業〔企画課〕

(2) 各部門の重点事業 実績

1) 広島国際大学

▶大学機関別認証評価事業〔企画課〕

実績報告

学校教育法第109条第2項の規定に則り、公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審した。自己点検評価書の提出及び実地調査等を実施し、2016年3月8日に、正式に評価機構が定める大学評価基準に適合していると認定された。評価結果及び自己点検評価書については、大学ホームページに掲載し、広く学内外に周知した。

5. 各部門の事業報告

◆ 大阪工業大学

2015年4月～2016年1月

連携協定を締結している奈良県川上村における取り組み。①インターネットで桜を鑑賞できる「桜ライブキャスト」の開発と映像配信②川上村をPRするWEBコンテンツをPBLで制作③あきつの小野公園の活性化を目的に「組立式移動店舗」のプレゼン実施。＜地域連携センター＞

2015年4月～2016年3月

高校の課題研究の進め方などについて問題を抱える理科教員などの相談窓口として理工教育支援室を設置。
＜入試課＞

2015年5月 産業界や多くの研究者が注目する競技大会「2015年度ロボカップジャパン@ホームリーグ」で優勝。＜情報科学部＞

2015年5月～2016年3月

OIT♡GIRLSを発足。オープンキャンパスやWEB動画などを通じ、本学の特長を女子学生の立場から学外へ発信。
＜入試課＞

2015年6月～9月

IAESTEによる学生受入を実施。ガーナの学生は約1カ月、チェコの学生は約2カ月、環境ソリューションセンターにて研究活動に従事。＜国際交流センター＞

2015年6月～12月

旭区共催の公開講座「あさひ”ちよこつと”WAKUWAKUセミナー」(全3回)を開催し153人が参加。さらに「よどがわ学

- 公開セミナー」(全5回)を開催し193人が参加。本セミナーを2014年度開講分と合わせて3回以上受講した35人に修了証を授与。〈工学部、地域連携センター、教務部〉
- 2015年7月 保護者を対象とした、就職支援セミナー「教育懇談会～家族ができる就職支援～」を開催。237組348人の保護者が参加。〈企画課〉
- 2015年7月 IEEE主催「IFEC2015」に電気電子システム工学科の学生チームが参加し、「世界第3位」に入賞。〈工学部〉
- 2015年7月 堺市教育委員会と連携協定を締結。〈全学部、全事務部署〉
- 2015年7月～8月 大学等改革総合支援事業タイプ1「教育の質的転換」、タイプ3「産業界・他大学等との連携」に選定。〈会計課〉
- 2015年7月～2016年2月 海外研究支援プログラム(大学院進学者対象留学支援制度)を実施。派遣学生33人は、北米、ヨーロッパ、アジアの大学等の20機関でそれぞれ1カ月から3カ月程度の研究活動に従事。〈国際交流センター〉
- 2015年7月～2016年2月 海外ラボ体験プログラムと国際PBLプログラムを実施。海外ラボ体験では、台北科技大と学生約10人を相互受入、台湾科技大へ学生15人派遣。国際PBLでは、海外6大学へ74人派遣7プロジェクト実施、2協定校より学生45人受入3プロジェクト実施。〈国際交流センター〉
- 2015年8月 「レスキューロボットコンテスト」に、モノラボを拠点に活動するロボットプロジェクトチーム「大工大エンジュニア」が出場し、「最優秀賞」を受賞。〈工学部〉
- 2015年8月 「工作・実験フェア2015」を開催し、約4,200人の小学生とその家族が参加。〈工学部〉
- 2015年8月～9月 学部3年次、大学院1年次のインターンシップを実施。141企業・団体に212人の学生が参加(参加学生数は過去最高)。また、初めて海外インターンシップとしてタイの日系企業へ2人の学生が参加。〈就職課〉
- 2015年8月～9月 大宮キャンパス1号館1階駐輪場をモノラボアネックスに改修し、PBL教育環境を整備。併せて改革総合支援事業タイプ1と一体補助にて私立学校施設整備費補助金を受けた。(事業経費56,160千円、補助額28,080千円)〈会計課〉
- 2015年8月、11月 国際PBLをタイと韓国の大学で実施。〈情報科学部〉
- 2015年8月～11月 国立民族学博物館の「韓日食博」に出展。食文化をデジタルコンテンツで紹介。〈情報科学部〉
- 2015年9月 大阪市経済戦略局と連携協定を締結。〈全学部、全事務部署〉
- 2015年9月 「鳥人間コンテスト2015」にモノラボを拠点に活動する人力飛行機プロジェクトチームが出場し、「3位」に入賞。〈工学部〉
- 2015年9月～10月 「平成27年度 科学の甲子園大阪府大会」を大阪府教育委員会と共催。同大会出場予定生徒対象の基礎実験講座も実施。〈入試課〉
- 2015年9月～12月 「OITテクノフロンティア」を全5回開催。情報通信、ロボットなどの分野の最前線で活躍する外部講師を招き、学内外から延べ約1,200人が参加。〈工学部〉
- 2015年10月 国際PBL「米国インターンシップ・プログラム」に初めて学部生が参加。学部生4人がサンフランシスコの法律事務所やIT企業を訪れ、実務研修などを通してアメリカの最先端の知財実務を学んだ。〈知的財産学部〉
- 2015年10月 城北祭(学園祭)期間中、知的財産学科の学生と協働し図書館大宮本館で特別企画展「見て・聞いて・触って学ぶ知的財産展」を開催。〈図書館〉
- 2015年11月 文部科学省のファブラボ整備の私学助成に採択。2016年3月には、整備した工房でアイデアソンを開催。〈梅田キャンパス開設準備室〉
- 2015年11月 ひらかた市民大学で地域にデジタル教材の公開講座「タブレット学習を体験する『みらいの教室』を開く」を実施。〈情報科学部〉
- 2015年12月 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)と共催でシンポジウム「ロボット・サービス・イノベーション」を開催し、学内外から約300人が参加。〈梅田キャンパス開設準備室〉
- 2015年12月 国際ロボット展NEDOエリアで梅田キャンパス訴求・ブースセミナーを実施。〈梅田キャンパス開設準備室〉
- 2015年12月～2016年3月 「大阪工業大学サポーターズ奨学金規定」を制定し、学生への経済的支援を整備・強化。〈学生課〉
- 2016年2月 「社会人基礎力育成グランプリ2016」決勝に工学部チームが出場し、「大賞」を受賞。〈工学部〉
- 2016年2月～3月 大宮キャンパス7号館および枚方キャンパス1号館のLL教室等の設備(可動式机・椅子、スマートインフィル等)を整備。従来の外国語科目だけでなく、PBL科目やグループワーク形式の授業にも対応する学修環境を整備。〈教務課〉
- 2016年2月～3月 大阪市旭区社会福祉協議会の依頼を受け、建築文化研究部が「旭区ボランティア・市民活動センター」を一部改修。〈学生課〉
- 2016年2月～3月 大宮6・7号館屋上の校章をコミュニケーションマークに付替え工事を実施。〈会計課〉
- 2016年3月 「第1回建築都市逍遥講座」を開催し、学内外から200人以上が参加。〈工学部〉

◆ 摂南大学

- 2015年 4月 「地域医療研究センター」を設立。〈枚方事務室〉
- 2015年 4月 図書館本館グループ閲覧室を改造しアクティブ・ラーニングに対応。〈図書館〉
- 2015年 4月 韓国・大田大学校から交換留学生が来日。〈国際交流センター〉

- 2015年 4月 「大学のふるさと」活動で摂南大学短期留学生在が由良中学校生徒と交流。〈国際交流センター〉
- 2015年 4月 ラグビー部員が第9回関西ラグビーまつりの関西学生代表に選出。〈学生課〉
- 2015年 4月 留学生ウエルカムパーティーを開催。〈国際交流センター〉
- 2015年 4月 寝屋川市石津小学校3年生の社会科地域学習に本学が協力。〈企画課〉
- 2015年 4月 「大学のふるさと」活動で和歌山県すさみ町イノブータン王国建国祭の運営を支援。〈企画課〉
- 2015年 4月 枚方キャンパスで図上訓練型災害対応研修を実施。〈枚方事務室〉
- 2015年 5月 準硬式野球部枚方支部が関西医歯薬連盟春季リーグで優勝。〈枚方事務室〉
- 2015年 5月 大阪学芸高等学校と高大連携に関する協定を締結。〈入試課〉
- 2015年 5月 「チャリウッド2015」「神戸まつり」に協力。〈広報室(摂大担当)〉
- 2015年 5月 「本当に強い大学2015」に掲載。〈広報室(摂大担当)〉
- 2015年 5月 国際交流センターFacebookを開設。〈国際交流センター〉
- 2015年 5月 経済経営学研究科が創立40周年記念「国際セミナー」を開催。〈経済学部〉
- 2015年 6月 「大学のふるさと」活動で吹奏楽部が第26回元気ゆら！ふるさとフェスティバルに参加。〈地域連携センター〉
- 2015年 6月 週刊朝日MOOK「看護師になる」に掲載。〈広報室(摂大担当)〉
- 2015年 6月 「常翔学園三大学課外活動団体交流戦」を開催。〈学生課〉
- 2015年 6月 新入生ふれあいキャンプを開催。〈学生課〉
- 2015年 6月 イタリアのIULM大学と包括協定を締結。〈国際交流センター〉
- 2015年 6月 薬学部6年次生が「日本薬剤学会永井財団学部学生七つ星薬師奨励賞」を受賞。〈薬学部〉
- 2015年 6月 理工学部建築防災研究室が寝屋川市立第八中学校と連携し避難所運営訓練「HUG」を実施。〈理工学部〉
- 2015年 6月 実践型防災教育キャンプ交野プロジェクトを実施。〈地域連携センター〉
- 2015年 6月 All摂南大学Dayを京セラドームで開催。〈企画課〉
- 2015年 7月 摂南大学創立40周年記念事業 特別展「淀川舟遊～若沖・応挙・蕪村も愛した～」を開催。〈外国語学部〉
- 2015年 7月 堺市教育委員会と連携協力協定を締結。〈地域連携センター〉
- 2015年 7月 国連70周年×摂大40周年「特別記念講演」を開催。〈国際交流センター〉
- 2015年 7月 「2015年度 第1回 摂大図書館ビブリオバトル」を開催。〈図書館〉
- 2015年 7月 京都府八幡市と防災協力協定を締結。〈枚方事務室〉
- 2015年 7月 天神祭に摂南大学創立40周年を記念し文字仕掛け花火を奉納。〈広報室(摂大担当)〉
- 2015年 7月 学生が門真市の夏祭りの運営に参加。〈地域連携センター〉
- 2015年 7月 ピアサポーターによる自習室を開室。〈学生課〉
- 2015年 7月 「大学のふるさと」活動で学生が由良町版防災ARアプリ「みたチョ」のステッカーを制作。〈地域連携センター〉
- 2015年 8月 「大学のふるさと」活動で看護学部長が「生活習慣と健康」について講演。〈地域連携センター〉
- 2015年 8月 「親子で学ぶパソコン教室」を開催。〈情報メディアセンター〉
- 2015年 8月 理工学部建築防災研究室が兵庫県病院局らと共催で県立病院の事務系職員を対象とした災害研修プログラムを実施。〈理工学部〉
- 2015年 8月 「大学のふるさと」活動ですさみ町にて忍者キャンプを開催、伝統行事の佐本川柱松祭りにも協力。〈地域連携センター〉
- 2015年 8月 台湾の南台科技大学と交流協定を締結。〈国際交流センター〉
- 2015年 8月 「理工学研究科生命科学専攻博士後期課程」および「看護学研究科看護学専攻修士課程」が認可。〈企画課〉
- 2015年 8月 薬学部6年次生が「第5回フッ素化学若手の会優秀ポスター賞」を受賞。〈薬学部〉
- 2015年 9月 大学発「知」の見本市「イノベーション・ジャパン2015」に出展。〈研究支援センター〉
- 2015年 9月 寝屋川キャンパスで実動型災害訓練を実施。〈庶務課〉
- 2015年 9月 摂南大学創立40周年記念事業外国語学部英語教育フォーラムを開催。〈外国語学部〉
- 2015年10月 経済学部生とイタリア・IULM大学生が合同ゼミを実施。〈経済学部〉
- 2015年10月 摂大祭ビブリオバトル～全国大学ビブリオバトル2015予選会(第1回)～を開催。〈図書館〉
- 2015年10月 台湾の大葉大学と交流協定を締結。〈国際交流センター〉
- 2015年10月 融合科学研究所設立記念講演会を開催。〈理工学部〉
- 2015年10月 薬学部6年次生が「第9回日本薬局学会学術総会ポスター優秀賞」を受賞。〈薬学部〉
- 2015年10月 ワガヤネヤガワ・ベンチャービジネスコンテストグランプリを受賞した「カレーに乗せてはいけぬ福神漬」の販売決定。〈経営学部〉
- 2015年11月 創立40周年記念感謝の会を開催。〈庶務課〉
- 2015年11月 「地域おこし協力隊(総務省)」と「見守り隊(摂南大学)」が交流。〈地域連携センター〉
- 2015年11月 第41回摂大祭において「摂大エコ&スマート大作戦(エコスマ)」を実施。〈学生課〉
- 2015年11月 本学が弘前大学、福島県立医科大学と共催し「災害医療フォーラム in 福島」を開催。〈理工学部〉
- 2015年11月 「2015年度常翔学園3大学文化会課外活動団体交流会」を開催。〈学生課〉
- 2015年12月 経済学部生が由良町長から感謝状を贈呈。〈経済学部〉
- 2015年12月 大学院看護学研究科開設記念(地域医療研究センター共催)「公開講座」を開催。〈看護学部〉
- 2015年12月 薬学研究科の大学院生が日本薬学会長井記念薬学研究奨励支援事業に採用内定。〈薬学部〉
- 2015年12月 理工学研究科社会開発工学専攻の学生が土木学会平成27年度全国大会で第70回年次学術講演会において優秀講演者に選出。〈理工学部〉
- 2015年12月 経済学部生が日銀グランプリで佳作に入賞。〈経済学部〉
- 2015年12月 創立40周年記念特別講演会「NO LIMIT～限界という壁を越えて～(栗城史多氏)」を開催。〈企画課〉
- 2016年 1月 経営学部主催「マーケティング論」学び直しセミナーがスタート。〈経営学部〉
- 2016年 1月 薬学部の学生が星ヶ丘医療センターの災害救助訓練に参加。〈薬学部〉
- 2016年 1月 法学部が摂南大学創立40周年記念講演会を開催。〈法学部〉

- 2016年 2月 健康医療都市ひらかたコンソーシアム連携事業「膠原病講演会」を開催。〈枚方事務室〉
- 2016年 2月 地域連携センター開設10周年フォーラムを開催。〈地域連携センター〉
- 2016年 2月 ごみステーション等を見える化。〈会計課〉
- 2016年 2月 経営学科生が組織するサイバー防犯ボランティアに大阪府警サイバー犯罪対策課から感謝状。〈経営学部〉
- 2016年 3月 関西10私大新技術説明会で研究成果を発表。〈研究支援センター〉
- 2016年 3月 2015年度摂南大学研究助成「Smart and Human研究助成金」成果発表会を開催。〈研究支援センター〉
- 2016年 3月 子どもから大人まで約1,600人が参加の寝屋川ラグビーフェスティバルを開催。〈学生課〉
- 2016年 3月 看護学部第1期生全員が国家試験に合格。〈看護学部〉

◆ 広島国際大学

- 2015年 4月 広国DAY「IPE・就業力育成プログラム共同開催講演会」を開催。〈総合教育センター、キャリアセンター〉
- 2015年 4月～2015年 8月
PROGテスト実施および学生・教職員向け解説会を開催。〈キャリアセンター〉
- 2015年 4月～2016年 3月
公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審し、評価機構が定める大学評価基準に適合していると認定。〈企画課〉
- 2015年 5月～2015年12月
ひろしまカレッジ「シティカレッジ・大学で開講する公開講座」を実施。
〈医療福祉学部、心理学部、大学院心理科学研究科、地域連携センター〉
- 2015年 5月～2016年 3月
公開講座「咲楽塾」(前期・後期)を実施。
〈保健医療学部、総合リハビリテーション学部、医療福祉学部、心理学部、工学部、看護学部、薬学部、医療栄養学部、医療経営学部、助産学専攻科、大学院心理科学研究科、地域連携センター〉
- 2015年 6月 海外教育機関との提携協定を締結(アメリカ・マーサー大学)。〈薬学部、国際交流センター〉
- 2015年 6月 広島県安芸太田町との連携協力協定を締結。〈地域連携センター〉
- 2015年 7月 アクセシビリティリーダー育成プログラム2級の導入およびアクセシビリティリーダー育成協議会への加盟。
〈障がい学生支援室〉
- 2015年 7月 専門職連携教育(IPE)Step1コンテストを開催。〈総合教育センター〉
- 2015年 7月～8月
幟町ギャラリー 被爆70年を迎えて「幟町と佐々木禎子」展示会と地域の伝承者による特別講演会を開催。
〈医療経営学部事務室〉
- 2015年 7月～8月
子ども向け(職業、科学・ものづくり)体験講座を実施。
〈保健医療学部、総合リハビリテーション学部、医療福祉学部、心理学部、工学部、看護学部、薬学部、医療栄養学部、地域連携センター〉
- 2015年 9月 広島国際大学健康レシピコンテスト「大切な〇〇に食べてほしいお弁当」を実施。〈医療栄養学部〉
- 2015年 9月 海外教育機関との提携協定を締結(アメリカ・テネシー大学医療科学センター)。〈薬学部、国際交流センター〉
- 2015年 9月 専門職連携教育(IPE)Step3、Step4を実施。〈総合教育センター〉
- 2015年 9月 2015年度第1回FD講演会・研修会「講演会:パフォーマンス評価導入の実際、研修会:ルーブリック作成ワークショップ」を開催。〈FD委員会、教務部〉
- 2015年10月 海外教育機関との提携協定を締結(中国・首都医科大学)。〈総合リハビリテーション学部、国際交流センター〉
- 2015年10月 海外教育機関との提携協定を締結(中国・中国リハビリテーション研究センター)。
〈総合リハビリテーション学部、国際交流センター〉
- 2015年10月 東広島市立図書館との相互利用に関する連携協定を締結。〈図書館事務室〉
- 2015年10月 広国DAY「専門職連携教育(IPE)Step1コンテスト、Step4成果発表会」を開催。〈総合教育センター〉
- 2015年10月 HIUキャリアフェア2015を実施。〈キャリアセンター〉
- 2015年10月 2015年度第2回FD研修会「学科における大人数専門教育科目において工夫されている点」「大人数共通教育科目において工夫されている点」を開催。〈FD委員会、教務部〉
- 2015年10月 「第22回全国女性消防練法大会」に広島県代表として出場。優良賞を獲得。〈保健医療学部〉
- 2016年 2月 食品衛生管理者および食品衛生監視員養成施設として登録。〈医療栄養学部、呉教務課〉
- 2016年 2月 2015年度第3回FD研修会「学科における大人数専門教育科目の工夫について」、「大人数共通教育科目の工夫について」を開催。〈FD委員会、教務部〉
- 2016年 3月 呉キャンパス1号館2階にラーニング・コモンズを整備。〈総合教育センター、呉教務課〉
- 2016年 3月 東広島市および広島県立黒瀬高等学校との3者による包括連携協定を締結。〈入試センター、地域連携センター〉
- 2016年 3月 広島県立黒瀬高等学校との高大連携協定を締結。〈入試センター、地域連携センター〉
- 2016年 3月 2015年度第4回FD講演会・研修会を開催。(講演会:深い学びに誘うアクティブ・ラーニングの手法、研修会:失敗しないALの手法:TBL(チーム基盤型学習))〈FD委員会、教務部〉
- 2016年 3月 2015年度第5回FD講演会「高大接続改革にどう対応するか?—新しい時代の大学入試とFD—」を開催。
〈FD委員会、教務部〉
- 2016年 3月 東広島市、東広島市社会福祉協議会、広島大学、近畿大学との5者による「災害時における協力に関する協定」を締結。〈庶務課〉

◆ 常翔学園中学校・高等学校

- 2015年 4月 [高校] ラグビー部が、第16回全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会において第3位。
- 2015年 4月 [中学・高校] ICT教育推進プロジェクトが発足。

- 2015年 5月 〔中学・高校〕部活動生徒集会で、摂南大学講師で世界柔道形選手権金メダリスト横山喬之氏の講演会を実施。
- 2015年 5月 〔高校〕薬学・医療系進学コース2年生が、広島国際大学体験学習を実施。
- 2015年 5月 〔中学・高校〕京セラドーム大阪で、体育祭を実施。
- 2015年 5月 〔中学・高校〕後援会総会を実施。
- 2015年 6月 〔高校〕文理進学コース2年生を対象に、ヤングアメリカンズアウトリーチ(創作ミュージカル)を実施。
- 2015年 6月 〔高校〕日本インドネシア教育文化交流協会の招待で、インドネシア国立ウブド第一高校の生徒・教員が来校。
- 2015年 6月 〔中学・高校〕公開授業、クラス懇話会を実施。
- 2015年 7月 〔中学〕修学旅行を実施(沖縄・八重山諸島方面)。
- 2015年 7月 〔高校〕中高大連携プログラムの一環として、1年生保護者を対象に学園内大学説明会を実施。
- 2015年 7月 〔中学〕イングリッシュキャンプを実施。
- 2015年 7月 〔高校〕オーストラリア語学研修を実施。
- 2015年 7月 〔高校〕英国インターナショナルプログラムを実施。
- 2015年 7月 〔高校〕ラグビー部がニュージーランド遠征を実施。
- 2015年 8月 〔高校〕科学部員・顧問が、今市商店街主催夏祭りにブースを出展。
- 2015年 8月 〔中学・高校〕経済産業省資源エネルギー庁から、エネルギー教育モデル校に認定される。
- 2015年 8月 〔高校〕アーチェリー部・柔道部・ウェイトリフティング部・水泳部が、平成27年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)に出場。
- 2015年 9月 〔高校〕男子ソフトボール部が、大阪総合体育大会で優勝。
- 2015年 9月 〔高校〕2年生がOsaka City Project発表会を実施。
- 2015年 9月 〔高校〕ラグビー部・アーチェリー部・柔道部が、第70回国民体育大会少年の部に出場。
- 2015年 9月 〔中学・高校〕文化祭を実施。
- 2015年 9月 〔中学・高校〕後援会懇話会を実施。
- 2015年10月 〔中学〕3年生がキャリア学習発表会を実施。
- 2015年10月 〔高校〕初となる海外修学旅行を実施(台湾・オーストラリア)。
- 2015年10月 〔高校〕淀川クリーンキャンペーンに、本校生徒がボランティアとして参加。
- 2015年10月 〔中学〕3年生が英語スピーチコンテストを実施。
- 2015年11月 〔高校〕日韓競技力向上スポーツ交流事業の日本代表として、本校水泳部員が韓国での合同合宿に参加。
- 2015年11月 〔中学・高校〕後援会研修旅行を実施(神戸方面)。
- 2015年11月 〔中学・高校〕防災訓練を実施。
- 2015年11月 〔高校〕3年生福留菜月さんが、第2回全国女子ラグビーフットボール選手権高校生の部に出場。
- 2015年11月 〔中学・高校〕マラソン大会を実施。
- 2015年12月 〔中学・高校〕GTECを受験(中学1年生を除く)。
- 2015年12月 〔高校〕卒業5年目・10年目同窓会を実施。同時に若手卒業生を主体とした常翔好友クラブを設立。
- 2015年12月 〔中学・高校〕中高大連携プログラムの一環として、元京都市立堀川高校校長荒瀬克己氏を招いて、学園合同研修会を本校で実施。
- 2015年12月 〔高校〕ラグビー部が、第95回全国高等学校ラグビーフットボール大会に出場。
- 2016年 1月 〔高校〕1年生が企業探究学習発表会を実施。
- 2016年 1月 〔高校〕1年生・2年生を対象に、キャリアセミナーを実施。
- 2016年 1月 〔高校〕オーストラリア・カシミア・カトリックカレッジ校生徒18名が来校。
- 2016年 1月 〔高校〕1年生後藤駿太君が、第71回国民体育大会冬季大会アイスホッケー競技会に出場。
- 2016年 2月 〔高校〕薬学・医療系進学コース2年生がガリレオプラン発表会を実施。
- 2016年 2月 〔中学〕スキー実習を実施。
- 2016年 2月 〔中学〕常翔啓光学園中学校と、百人一首交流会を実施。
- 2016年 2月 〔中学・高校〕クエストカップ2016全国大会に出場(10年連続)。
- 2016年 3月 〔高校〕京都大学2名(過年度生1名含む)・大阪大学5名・神戸大学1名の合格者を輩出(過去最高)。
- 2016年 3月 〔高校〕国公立大学に、延65名の合格者を輩出(過年度生2名および文部科学省所管外16名含む、過去最高)。
- 2016年 3月 〔高校〕第38回全国高等学校柔道選手権大会において、2年生西村優太君が66kg級で優勝。
- 2016年 3月 〔高校〕淀川国際ハーフマラソンに、本校生徒がボランティアとして多数参加。
- 2016年 3月 〔高校〕ラグビー部が、第17回全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会に出場。

◆ 常翔啓光学園中学校・高等学校

◆ 常翔啓光学園中学校・高等学校

- 2015年 4月 〔中学〕3学年全生徒が、オリエンテーション合宿を実施。
- 2015年 4月 〔高校〕1年生がアドバンスキャンプを実施。
- 2015年 5月 〔高校〕摂南大学の協力を得て、第1回サイエンスラボを実施。
- 2015年 5月 〔中学・高校〕近隣の小学生対象として、サイエンス部主催の親子サイエンス教室を実施。
- 2015年 6月 〔中学〕全学年で宿泊行事を実施。1年生大山登山、2年生阿南海洋訓練、3年生四万十川修学旅行。
- 2015年 6月 〔高校〕体育祭を実施。
- 2015年 6月 〔中学・高校〕芸術鑑賞会を実施。いずみホールで、クラシックを鑑賞。
- 2015年 7月 〔中学・高校〕6学年すべてで、GTECを受験(高校3年生の一部を除く)。
- 2015年 7月 〔高校〕1年生対象で、大阪工業大学・摂南大学の協力を得て、中高大連携模擬授業を実施。
- 2015年 7月 〔高校〕オーストラリア短期留学を実施。
- 2015年 7月 〔中学・高校〕英国インターナショナルプログラムを実施。
- 2015年 7月 〔高校〕3年スポーツ進学コースの生徒が研修(修学)旅行をニュージーランドで実施。
- 2015年 7月 〔高校〕3年生が、人権映画鑑賞会を実施。

- 2015年 8月 [高校] 3年生が、K¹スタディキャンプ(勉強合宿)を実施。
- 2015年 8月 [中学・高校] 啓光祭(文化祭)を実施。
- 2015年 9月 [高校] 1年生が、K¹スタディキャンプ(勉強合宿)を実施。
- 2015年 9月 [高校] 2年生が、修学旅行を実施。ハワイと八重山諸島の2コース制。
- 2015年 9月 [中学] 体育祭を実施。
- 2015年10月 [中学] 全学年対象で、人権映画鑑賞会を実施。
- 2015年10月 [中学] 全学年対象で、大阪工業大学・摂南大学の協力を得て、K¹クエストを実施。学年ごとに特別プログラムを組んで実施。
- 2015年10月 [中学・高校] 希望者を対象に、「スプリング8」見学会を実施。
- 2015年11月 [高校] 1年生対象で、摂南大学の留学生と異文化交流会を実施。
- 2015年11月 [中学・高校] 防災訓練を実施。
- 2015年12月 [中学・高校] GTECを受験(中学1年生と高校3年生を除く)。
- 2015年12月 [中学] 3年生対象で、摂南大学の協力を得て、K¹クエストを実施。
- 2015年12月 [高校] 1・2年生が、人権映画鑑賞会を実施。
- 2015年12月 [中学・高校] 2015年度に誕生した吹奏楽サークルが、初の演奏会を開催。
- 2016年 1月 [中学] 英語暗唱大会を実施。
- 2016年 1月 [中学・高校] マラソン大会を実施(高校3年生を除く)。
- 2016年 2月 [中学] 常翔学園中学校との百人一首大会交流会で、本校が優勝。
- 2016年 2月 [中学] コミュニケーション発表会を実施。合わせて法政大学で開催された「クエストカップ2016全国大会」(主催:教育と探求社)に、本校代表生徒が参加。
- 2016年 3月 [全校] 教室数増および職員室一体化を目的に、1号館・2号館の改装工事を実施。

◆ 法人本部

◇ 内部監査室

- 2015年 5月～ 7月
競争的資金(科学研究費助成事業等)の執行状況監査を実施。
[対象:大阪工業大学、摂南大学、広島国際大学]
- 2015年 9月～12月
各大学の教務課業務監査を実施。[対象:大阪工業大学、摂南大学、広島国際大学]
- 2015年12月～2016年 2月
常翔学園中学校・高校事務室業務監査を実施。[対象:常翔学園中学校・高校事務室]

◇ 法人室

- 2015年 7月 監事の改選。
- 2015年10月 大阪工業大学、摂南大学および広島国際大学学長の改選。
- 2016年 2月 常翔学園中学校・高校および常翔啓光学園中学校・高校校長の改選。

◇ 経営企画室

- 2015年 4月～2016年 3月
梅田キャンパス開設準備委員会事務局を運営。
- 2015年 9月～2016年 3月
学園の中長期ビジョン整理を実施。
- 2016年 1月 「J-Vision 22」の浸透を目的としてパンフレットを作成し、在学生の保護者および教職員に配付。
- 2016年 3月 「J-Vision 22」の浸透状況等についてアンケート調査を実施。

◇ 危機管理室

- 2015年 4月 災害時行動マニュアルの作成、配布。<危機管理課>
- 2015年 4月 大宮校地消防計画書(防火・防災)の作成、届出。<危機管理課>
- 2015年 4月～2016年 2月
学園各校地・キャンパスの防火・防災訓練、反省会の実施。<危機管理課>
- 2015年 5月 第1回一斉連絡・安否確認システム運用訓練の実施。<危機管理課>
- 2015年 6月 第1回大宮校地防火・防災管理委員会の開催。<危機管理課>
- 2015年 7月 避難所運営会議の実施(避難所開設運営訓練予行)。<危機管理課>
- 2015年 8月 避難所運営会議の実施(避難所開設運営訓練本番)。<危機管理課>
- 2015年 9月 第1回備蓄品(機材を含む)点検の実施。<危機管理課>
- 2015年 9月 第1回自主点検の実施。<危機管理課>
- 2015年 9月～12月
大宮校地避難場所・避難経路見直し調整会議の実施。<危機管理課>
- 2015年11月 緊急地震速報システム運用訓練の実施(津波防災の日)。<危機管理課>
- 2015年11月 防災講演会の実施。<危機管理課>
- 2015年11月 第2回一斉連絡・安否確認システムの運用訓練の実施。<危機管理課>
- 2016年 1月 危機管理対策本部立ち上げ運営訓練実施。<危機管理課>
- 2016年 1月 中宮・大宮地域防災会議の開催。<危機管理課>
- 2016年 2月 防火・防災管理者会議の開催。<危機管理課>
- 2016年 3月 第2回備蓄品(機材を含む)点検の実施。<危機管理課>
- 2016年 3月 第2回大宮校地防火・防災管理委員会の開催。<危機管理課>

2016年 3月 第2回自主点検の実施。〈危機管理課〉

◇ 広報室

2015年 4月～ 5月

特別展「ガウディ×井上雄彦展」に協賛。(大阪工業大学、摂南大学)

2015年 5月 梅田エリアで開催のイベント「チャリウッド2015」に協賛。(大阪工業大学、摂南大学)

2015年 5月 「第45回神戸まつり」に協賛。(摂南大学)

2015年 5月 学園広報誌FLOW64号発行。

2015年 6月～2016年 3月

大阪工業大学新学部告知JR額面広告掲出および運動企画動画の公開。

2015年 7月 学内者対象「第1回広報実務セミナー・勉強会Sコース」「第1回勉強会Aコース」を主催。

2015年 7月 第69回水都祭「天神祭奉納花火」に協賛。

2015年 8月 学園広報誌FLOW65号(卒業生版)発行。

2015年10月 学園案内2015発行。

2015年10月 学内者対象「第2回広報実務セミナー・勉強会Sコース」を主催。

2015年10月 「MBSハッカソン Hack On Air」に協賛。(大阪工業大学)

2015年11月 学園広報誌FLOW66号発行。

2015年12月 大阪工業大学梅田キャンパスフリーフレット発行。

2015年12月 梅田エリアで開催のイベント「スノーマンフェスティバル」に協賛。(大阪工業大学)

2016年 1月 学園広報誌FLOW67号発行。

2016年 2月 学内者対象「第3回広報実務セミナー・勉強会Sコース」「第2回勉強会Aコース」を主催。

2016年 2月～ 3月

大阪工業大学、摂南大学、広島国際大学と報道機関関係者との懇談会(大学別)を主催。

2016年 2月 「寝屋川ハーフマラソン2016」に協賛。(摂南大学)

2016年 3月 学園広報誌FLOW68号(卒業生版)発行。

2016年 3月 「第6回淀川国際ハーフマラソン」に協賛。

2016年 3月 大阪工業大学梅田キャンパス開設告知の梅田ジャック企画を実施。阪急梅田駅、JR大阪駅界隈に大型広告などを掲出。

【プレスリリースの配信件数】

大阪工業大学 32本、摂南大学 37本、広島国際大学 24本、学園 4本

◇ システム室

2015年 9月 本部棟事務系無線LANアクセスポイントの整備。

2015年 9月 テレビ会議システムの更新。

2015年10月 事務用Eメールのクラウド化。

2015年11月 退職金ポイント制度導入に伴う人事給与システムの改修。

2015年12月 マイナンバー制度にかかる人事給与システムの対応作業実施。

2016年 3月 公文書管理システムの更新。

2016年 3月 各大学出欠管理システムの更新。

◇ 総務部

2015年 4月 業務改革にかかる理事長表彰式を実施。〈人事課〉

2015年 4月～2016年 1月

事務職員階層別研修を実施。〈職員研修課〉

2015年 4月～2016年 3月

学外公益団体(日本高等教育評価機構)へ若手職員を研修派遣。〈職員研修課〉

2015年 6月～2016年 2月

部門スキル開発スタートアップ支援制度を創設し3件を採択。〈職員研修課〉

2015年 7月 私学マネジメント講演会を実施。〈職員研修課〉

2015年 7月～12月

欧州女性活躍推進調査団へ管理職の事務職員を派遣。〈職員研修課〉

2015年 8月 事務職員夏期集合研修を実施。〈職員研修課〉

2015年 8月～ 9月

海外学生引率業務に事務職員を研修派遣。〈職員研修課〉

◇ 財務部

2015年 6月 学生等への福利厚生環境維持・向上のため、バーカー調理機器(呉)を新設。〈用度課〉

2015年11月・2016年 3月

学生等への福利厚生環境維持・向上のため、食堂券売機(大宮 1台、呉 1台)を更新。〈用度課〉

2015年 4～11月

学生等への福利厚生環境維持・向上のため、食堂厨房機器(大宮・寝屋川・枚方第2)を更新。〈用度課〉

2015年 6～ 2月

学生等への福利厚生環境維持・向上のため、国際会館空調機15台(野江校地)を更新。〈用度課〉

2016年 3月 学生サービス向上および修学指導等教育効果向上のため、出欠管理システム(工大・摂大・広国大)を更新。
〈用度課〉

◇ 研究推進連携機構

1. 特許等管理状況

(2016年3月31日現在)

発明関係	総数	内訳	
		単独	共同
2015年度発明届出件数	18	6	12
2015年度日本国内出願件数 (分割出願等を含む)	12	6	6
国内特許権取得件数(累計)	37	14	23
外国出願件数(累計)	48	15	33
実施、利用許諾関係	特許 (出願中含む)	著作権	商標
実施許諾(オプション含む)(累計)	7	1	1

2. 知的財産、産学連携に関する啓発・支援

① 研究者に対する支援

知的財産セミナーの開催

2015年 6月 大阪工業大学、摂南大学、広島国際大学

2015年 9月 広島国際大学

② 事務職員に対する支援

産学連携・研究支援セミナーの開催

2015年 9月 法人、大阪工業大学、摂南大学、広島国際大学の研究支援部署、会計部署及び学部事務室の事務職員を対象

③ 改正不正競争防止法と文部科学省からの『大学における技術流出防止マネジメントに関する検討の方向性』に対応した規定の制定

2015年 9月 学校法人常翔学園学外機関との研究における秘密情報管理規定の制定

④ 改正特許法に基づく職務発明にかかる規定の改正

2016年 3月 学校法人常翔学園発明規定の改正

3. 外部組織との連携

① 科学技術振興機構を活用した連携促進

- ・ 新技術開発あっせんによる技術移転と産学連携
- ・ JST外国特許出願支援制度の利用
PCT出願支援および各国への国内段階移行支援への申請
- ・ 特許主任調査員による発明内容の評価
- ・ JST科学技術コモンズへの特許情報の提供とJ-STOREへの掲載
- ・ シーズの提供

② 知的財産戦略ネットワーク株式会社を活用した技術(創薬系)移転活動

③ 公益財団法人新産業創造研究機構を活用した専門家のよる研究成果の新規性・進歩性評価

公益財団法人新産業創造研究機構を活用した研究内容の評価

④ 学外との連携会議

- ・ 近畿経済産業局:産学官連携実務者会議への参加(2015年10月、2016年3月)
- ・ 関西私立大学知的財産連絡協議会への参加(2015年9月、12月)
- ・ 関西科研費事務担当者情報交換会への参加(2015年7月)

4. シーズ発表

- ・ イノベーション・ジャパン(2015年8月)、大学特許と中小企業のマッチングフェア(2015年11月)、中国地域さんさんコンソ 新技術説明会(2015年11月)、ビジネス・エンカレッジ・フェア2015(2015年12月)、関西10私大 新技術説明会(2016年2月)等

◇ 連携教育推進機構

2015年 4月 第1回中高大連携教育推進委員会を開催。

2015年 6月～11月

常翔学園中学校・高等学校にて中高大連携プログラムを実施。

2015年 7月 常翔学園高等学校保護者対象説明会「大学での学びについて～学園設置大学が提供している教育・研究メニュー」を開催。

2015年10月 第2回中高大連携教育推進委員会を開催。

2015年11月 第1回中高大連携教育推進委員会入試分科会を開催。

2015年12月 学園合同研修会「これからの高大接続のあり方」を開催。

2015年12月 第2回中高大連携教育推進委員会入試分科会を開催。

2016年 1月 第3回、第4回中高大連携教育推進委員会入試分科会を開催。

2016年 3月 第3回中高大連携教育推進委員会を開催。